

リト云ハサル可カラス我國從來極メテ獄吏ヲ賤視シ下スニ牢番ノ名ヲ以テス故ニ有爲ノ士皆之ニ赴クヲ好マス遂ニ假出獄ノ良法モ惡法ノ誹リヲ招カントスルニ至ル豈ニ慨嘆ニ堪ヘンヤ余ハ切言ス今日ノ急務看守ノ養成ヨリ緊要ナルハナシト

第五原則 假出獄許否ノ權ヲ有スルモノハ司法大臣ナリ即チ假出獄ヲ許ス可キ者アルトキハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレンコトヲ司法大臣ニ上申シ司法大臣ハ此上申ニヨリ之ヲ與フルモノトス

第六原則 假出獄ハ之ヲ取消スコトヲ得假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得サルナリ又刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ爾後假出獄ヲ許サス

第七原則 假出獄中出獄者ノ身分ヲ監視スルノ必要アリ其獄内ニ在ルヤ司獄官ハ仔細ニ之ヲ監査スルコトヲ得可シト雖モ一旦假出獄ヲ得テ社會ニ相伍スルニ至レハ其監査ノ方法極メテ困難ナラサルヲ得ス是レ實ニ刑法附則ニ於テ

特別監視ノ制度ヲ設クルニ至レル所以ナリ

夫レ假出獄ノ制タル犯人ヲシテ漸次改善ニ導キ再犯ヲ防遏スルノ手段トナルノミナラス又監獄費ヲ節減シ人民ノ負擔ヲシテ益々輕カラシムルコトヲ目的トス然リト雖モ一朝之ヲ施スノ道ヲ誤ランカ之カ爲メニ刑法ノ威嚴ヲ失墜シ刑罰ノ制裁ヲシテ無效タラシム假出獄ハ猶利刀ノ如キカ其使用ノ方法如何ニヨリテ或ハ敵ヲ斬リ或ハ身ヲ損セン之カ適用亦大ニ慮ラサル可カラス果シテ然ラハ假出獄ノ目的ヲシテ十全ナラシメンニハ如何ナル條件ヲ要スルヤ左ニ之ヲ説カン

第一條件 假出獄ヲ許スニ付テハ囚徒ノ出獄後善良ノ人民トナルヲ得可キ準備ヲ設クルコトヲ要ス

準備トハ何ンヤ曰ク免囚保護會社ノ設立是ナリ此會社ノ設立ナクハ到底假出獄ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルナリ一言此會社ノ必要ナル所以ヲ述ヘントス

凡ソ人ノ罪ヲ犯スヤ必スヤ之ヲ犯サル可カラサルノ必要ニ迫リ而シテ後之

ヲ犯スニ至ルモノナリ之ヲ換言スレハ社會ノ信用地ニ墜キ生活ノ道ヲ得ルコト能ハサルヨリ遂ニ犯罪ヲ行フニ至ルモノナリ夫レ人未タ囚徒タラサル前已ニ社會ノ信用ヲ失フトキハ其一旦投獄セラル、ニ及ヒテハ其信用ヲ滅失スルコト一層甚タシクシテ假令假出獄ヲ得テ以テ社會ニ出ツルコトアルモ誰カ之ニ資本ヲ投シテ業ヲ營マシメ或ハ賃金ヲ與ヘテ以テ之ヲ雇フ者アラシヤ夫レ此ノ如クニシテ出獄者ハ到底社會ニ伍シ正道ニ就クノ道ヲ得ルコト能ハス遂ニ再ヒ罪ヲ犯スノ已ム可カラサルモノアルニ至ル是レ實ニ免囚保護會社ノ一日モ無カル可カラサル所以ナリ生業ヲ得サル免囚者ヲシテ悉ク此會社ニ入ラシメ各々其長所ニ從ツテ之ヲ使役シ以テ出獄者ニ生活ノ道ヲ得セシメンカ焉ソ好シテ罪ヲ犯ス者アラシヤ況シヤ遷善悔悟ノ道ニアル假出獄者ニ於テオヤ假出獄ノ制度此ニ至ツテ完備セルモノト謂フ可シ我國未タ多ク此種ノ會社ノ設立ヲ見ル能ハス其假出獄ニ付テ完全ノ結果ヲ收ムル能ハサルモ故ナキニアラサルナリ

歐洲諸國ニ於テハ到處免囚保護會社ノ設ケアラサルハナシ然レトモ是レ決シ

テ政府ノ事業トス可キモノニアラス蓋シ政府ハ犯人ヲ懲罰スルノ地位ニアリテ會社ハ之ヲ憫恤スルノ地位ニアリ二者相容レサルノ性質ヲ有スル者ナレハナリ

論者或ハ曰ク免囚ニ對シ特別會社ノ下ニ於テ生活ノ道ヲ得セシムルハ洵ニ善シ然レトモ彼ノ道路ニ食ヲ乞フ者ニ對シテ何等ノ保護ヲ與ヘス特別制度ノ設ケヲ爲サ、ルハ抑モ亦權衡ヲ失フモノト云ハサル可カラス免囚ハ既ニ社會ニ對シ一旦危害ヲ加ヘ刑法ノ罰スル所トナリタルモノナリ然ルニ尙ホ之ニ對シテハ特別ノ保護ヲ與フルコトヲ爲シ未タ社會ニ對シテ何等ノ危害ヲ加ヘタルコトナク居住ナク衣食ナク親子夫妻相別離シ身ニ襁褓ヲ纏ヒ路傍ニ食ヲ求ムル者ニ對シテハ毫厘ノ保護ヲ與フルコトヲ爲サス抑モ地位顛倒ノ極ト云ハスシテ可ナランヤ善良ニシテ貧ヲ守ル者ハ之ヲ能ク救フ者ナク不善ニシテ罪ヲ犯ス者ハ特別保護ニ浴スルコトヲ得ルトセハ貧者タルコトヲ欲セスシテ罪人タランコトヲ希望スル者ヲ出スナシトセサルナリト論者ノ言實ニ然リ免囚保護會社起ルトキハ則チ必ス貧民救助ノ道モ講セサル可カラス此ノ如ク一方ニ

於テ初犯者ヲ防キ一方ニ於テ再犯ヲ防遏セハ庶幾クハ犯人ノ數ヲシテ減セシムルコトヲ得ン

第二條件 是レ假出獄者ニ對スル監視ナリ監視ノ制度ハ其特別監視ト普通監視トヲ問ハス決シテ完全ナルモノナリト謂フヲ得ス其弊多クシテ而シテ其利少ナキナリ此ヲ以テ改正刑法草案ニ於テハ現行刑法ノ監視制度ヲ廢シ僅カニ名稱ハ之ヲ保存セルモ其制度ニ至リテハ全ク同一ノモノニ非ス抑モ監視ハ其目的再犯ヲ豫防スルニアリ故ニ此目的ヲ達セントスルニハ警察官ヲシテ出獄者ヲ監査セシメサル可カラス然ルニ現在人口ト警察官ノ員數ヲ比例スルニ東京ニ在テハ人口百ニ對スル警察官一人地方ニ在テハ平均人口五百ニ對スル僅カニ警察官一人アルノミ此少數ノ警察官ヲ以テ此多數ノ人口ヲ監視セントス是レ木ニ緣リテ魚ヲ求ムルノ類ノミ監視制度ノ效ナキ知ル可キノミ又之ヲ實際ニ徵スルニ人ノ罪ヲ犯シ刑ヲ受クルヤ其執行ヲ終レハ則チ法律上敢テ一般人ト異ナル所ナシ然レトモ社會ノ公衆ハ尙ホ彼レヲ以テ罪人トスルコトヲ忘レヌ之ト相齒スルヲ喜ハサルナリ然ルニ監視ノ規則アリテ彼レヲ羈束シ警察官ハ

時々其家ニ出入シ監視人ハ屢々警察署ニ往來セサル可カラス是ニ於テ世人ハ益々其監視人ニ注目シ社交上ノ困難愈々甚シキヲ加フ且ツ監視人ハ身体ノ自由ヲ制限セラレハ以テ旅行ヲ爲スニ付テモ警察署ノ許可ヲ要シ宿泊スルニ付テモ亦許可ヲ要シ生業上自由ヲ失フコト甚タ大ナルカ故ニ或ハ再ヒ罪ヲ犯スノ已ム可カラサルニ至ルナリ然ラハ則チ監視制度ハ犯罪ヲ豫防セントシテ之ヲ設ケ却テ再犯ヲ養成スルノ制度トナル豈一驚ヲ喫セサランヤ監視ノ有害無益ナルコトハ識者ヲ俟ツテ後チ之ヲ知ラサルナリ今ヤ監視主義ノ説明ヲ終ルニ臨ミ改正刑法草案ノ規定ニ係ル刑ノ執行猶豫ニ付キ一言セントス
改正刑法草案ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ規定ヲ設ク是レ歐洲諸國ノ刑法ニ所謂條件附裁判ト稱スルモノナリ歐洲ニ於テ始メテ此制度ヲ行ヒタルハ白耳義國ナリ實ニ千八百九十年此制度ヲ設ケ初犯ニシテ六ヶ月以下ノ處罰ヲ受ケタル者ハ其刑ノ確定後一定ノ條件ニ從ヒ刑ノ執行ヲ猶豫スルコトヲ許シタリ
刑ノ執行猶豫トハ初犯ニシテ短期ノ刑ニ處セラレタル者ニハ一定ノ條件ニ因リ其刑ノ執行ヲ猶豫シ若シ其條件ニ違ハサルトキハ未タ刑ヲ科セサルモノト

同視スト云フニ在リ初メ司法省ニ於テ此案ノ議ニ上ルヤ委員中反對者多クシテ容易ニ決セス其説ニ曰ク此制度ハ刑法ノ精神ニ反スルモノニシテ到底之ヲ設ク可カラサルモノナリ何トナレハ罪アレハ爰ニ刑ヲ科シ刑ヲ科スレハ爰ニ之ヲ執行セント欲スレハナリ然ルニ刑ヲ科シテ而シテ之ヲ執行セストセハ初メヨリ之ヲ科セサルノ勝レルニ如カスト是レ一理ナキノ論ニ非サルナリ然レトモ余輩ト感ヲ同シクスル論者ハ曰ク刑ノ執行猶豫ハ絶對的ニ刑ヲ執行セスト謂フニ非ス若シ夫レ刑ノ執行猶豫ハ全ク刑ノ執行ヲ爲サスト云フニアラシメハ論者ノ駁論素ヨリ當レリ然レトモ余輩ハ決シテ全然其執行ヲ爲サスト云フニ非スシテ單ニ其執行ヲ猶豫セント云フニ在ルノミ故ニ假令一旦刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル犯人ト雖モ之ヲ許スノ條件ニ違背センカ直チニ之ヲ取消シ以テ刑ノ執行ヲ爲スコトヲ得去レハ之ヲ以テ刑法ノ精神ニ違背スルモノナリト云フハ非ナリ論者或ハ曰ハン刑ノ執行猶豫ハ一定ノ期間内再ヒ罪ヲ犯サハル時ハ先キニ科シタル刑ハ當然消滅ニ歸スルモノトナス然ラハ則チ條件ヲ具備スルニ於テハ全然刑ヲ科セサルト同一ニ歸スルモノナリ是レ刑法ノ精神ニ反

スルモノニ非スシテ何ソヤト余ハ試ミニ反對論者ニ問ハン論者ハ現行刑法ニ規定スル假出獄ノ制ヲ是認スルモノニ非スヤ刑ノ一部ノ執行ハ之ヲ猶豫スルコトニ同意シテ其全部ノ執行ヲ猶豫スルニ至テ反對セントスルハ五十歩百歩ノ笑ヲ來タスナキヲ得ンヤ抑々假出獄ノ條件ヲ遵守シテ刑ノ執行ヲ免ル、ト執行猶豫ニ於テ刑ノ執行ヲ免ル、ト二者ノ間果シテ如何ノ差異アルカ論者ハ畢竟其一ヲ知ツテ未タ其二ヲ知ラサル者ト謂ハサルヲ得ヌ特ニ假出獄ハ行政處分ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ許シ刑ノ執行猶豫ハ裁判官ノ行爲トシテ之ヲ宣告ス二者決シテ其科ヲ同フシテ論ス可キニ非サルナリ是ニ於テカ改正刑法草案ハ遂ニ此制度ヲ創設スルニ至レリ

刑ノ執行猶豫ヲ率先シテ實行シタルハ白耳義國ナリ然レトモ是レ決シテ同國ノ發明ニ係ルモノニアラスシテ往昔之ニ類似ノ制度ヲ行ヒタル國ニ倣フタルナリ米國ニ於テハ農トニ監獄問題ニ注目シ彼ノ米國獨立戰爭ニ於テ有名ナルフランクリン氏ノ如キハ獨リ農業ニ熱心ナルノミナラス監獄制度ニ於テモ亦發明シタル所多シ前ニ説明シタルフヒラデルフヒヤ主義ノ如キハ實ニ同氏ノ發明

ニ係ル所ノモノナリ米國ニ於テハ會テ私宅監禁ノ制度ヲ設ケ大ニ監獄費ノ減少ヲ計レルコトアリ日本ニ於テモ昔時武士ニハ屏居ヲ命セシコトアリキ東西其揆ヲ同フスルハ奇ト謂フ可シ英國ニ於テハ自由刑ヲ減シ之ニ代フルニ金刑ヲ以テシタリ是レ皆政府ノ支出ヲ減スルノ方法ニ非サルハナシ此等ノ制度一變シテ假出獄トナリ假出獄ノ制度又一變シテ刑ノ執行猶豫ノ制度トナリタルナリ

白耳義ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ制ヲ設ケ一方ニハ監獄費ヲ減少スルノ一策トナシ他ノ一方ニハ罪惡感染ノ弊害ヲ防クノ方法トセリ然レトモ一利一害ハ事物ノ免レサル所ナレハ假令此制度論理上完全ナリトスルモ之ヲ適用スル其宜シキヲ得サル時ハ則チ大ナル弊害ヲ生スルコトアルヘシ會テ聞ク白耳義ニ於テハ稍此制度ヲ濫用セシカ爲メニ微罪ヲ犯スモノ漸ク増加スルニ至レリト余輩又此弊ニ付キ大ニ憂慮スル所アリ刑法改正草案ニ於テハ猶豫ノ許否權ヲ以テ之ヲ判事ノ全權ニ放任セシテ檢事ノ請求ヲ俟ツテ始メテ之ヲ決定スルコト、ナセリ

第二 徒刑主義

徒刑主義ハ監獄主義ノ制度到底犯人ヲ懲戒スルニ足ラス之ヲ普通人民タラシムルハ望ム可キノ業ニアラスト爲シタルヨリ始メテ發生シタル所ノ一主義ナリ此主義ニ從フトキハ凡ソ一旦罪人タル者ハ假令眞ニ悔悟シテ善良ノ人トナルモ社會ノ公衆ハ之ヲ普通人視セスシテ終生罪人視セントス既ニ普通人ト同等ノ地位ヲ得セシム可カラストセハ一旦罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者ハ之ヲ内地ノ獄ニ投セス直チニ殖民地ニ追放スルニ若クハナシ是レ管ニ内地ニ於ケル再犯者ヲ掃蕩スルノ利益アルノミナラス又以テ殖民地ヲ開拓スルノ利益アリ今日歐米諸國ノ殖民地ヲ有スルモノ之カ發達ヲ圖ルニ於テ最モ困難ヲ感スル所ノモノハ土地ノ狹隘ナルニ非スシテ實ニ之ニ要スル人員ノ缺乏ニアリ此時ニ當リ囚徒ヲ移シテ以テ大ニ之ヲ利用センカ殖民地ノ開發期シテ待ツ可キノミト

余輩ヲ以テ之ヲ見レハ徒刑主義ハ未タ必スシモ之ニ左袒スルヲ得ス今其弊害ノ概要ヲ擧クレハ第一殖民地ヲ開發スルニ付其初メニ當リ極惡ノ囚徒ヲ使用

スルハ是レ殖民地ニ惡風ヲ貽スノ方法ナリ苟クモ自國ノ邦域ヲ造ルニ於テ施
 ス可キ所ノモノナランヤ第二徒刑主義ハ囚徒ヲ島地ニ派遣スルニ付莫大ノ費
 用ヲ要スルコト即チ是レナリ而シテ其島地ノ遠隔ナルニ從ヒ其費用益増大ト
 ナリ恰モ一ノ遠征隊ヲ派遣スルニ同シ而シテ殖民地ヲ開拓スルノ利益ハ以テ
 此等ノ費用ヲ償フ能ハサルナリ第三此主義ニ於テハ囚徒ヲ遇スル多少寛大ニ
 シ自由ヲ與フルコトモ亦之ヲ内地ノ獄舎ニ在ル者ニ比スレハ同日ニシテ而シ
 テ論ス可カラサルモノアルカ故ニ内地ノ獄舎ニ在ル者ハ此利益ヲ得ンコトヲ
 希ハ故テニ重罪ヲ犯シテ徒刑ニ處セラレンコトヲ希フ者ヲ見ルニ至ルアリ此
 主義ハ夫レ此ノ如ク許多ノ弊害アルヲ以テ先年歐羅巴ニ開キタル監獄會議ニ
 於テ遂ニ此主義ヲ全廢セリ

以上獄制ノ二主義ニ付テ其概要ヲ述ヘタリ今ヤ進ンテ刑法ニ關スル自由刑ノ
 執行ニ付テ少シク論述スル所アラントス

第三項 自由刑ノ執行方法

刑法ハ各種ノ刑ヲ定メ裁判所之ヲ宣告ス裁判所ハ之ヲ宣告スト雖モ之ヲ執行

スルモノニアラス其執行ハ監獄ニ於テ之ヲ爲ス即チ刑ノ適用ト刑ノ執行トハ
 二者全ク之ヲ分離セリ

刑ノ執行方法ニ關スル問題亦決シテ單一ノモノニアラス或ハ刑ノ執行方法ハ
 細密ノ規則ヲ設ケテ以テ之ニ準據セシム可キヤ或ハ政府ノ全權ニ放任ス可キ
 ヤ此等ノ問題ニ付テハ其ノ何レニ從フモノトスルモ決シテ極端ニ流ル、コト
 能ハサルナリ緻密ノ規定ヲ設ケテ以テ執行官ヲ束縛スルモ不可ナル所アリ刑
 ノ執行ハ各地ノ狀況ニ相應セサル可カラス例之ハ九州ノ監獄ト北海道ノ監獄
 ニ於テ同一ノ執行方法ヲ施ス可カラサルカ如シ又刑ノ執行ハ之ヲ行政官ノ全
 權ニ放任ス可カラス若シ夫レ刑ノ執行方法ニ關シ何等ノ制限ヲモ設ケスシテ
 之ヲ行政官ニ放任センカ全國各其執行方法ヲ異ニシ司獄官ノ更迭ハ常ニ其執
 行方法ヲ變更スルニ至ラン即チ某監獄ニ於テハ囚徒ヲ寬待シ他ノ監獄ニ於テ
 ハ之ヲ嚴格ニシ必ス執行上ノ不公平ヲ來タスノ弊ヲ生ス可シ現行刑法ハ其中
 庸ヲ採リ細密ニ涉ラス又放任ニ失セス能ク其原則ヲ規定シ其執行細則ハ之ヲ
 監獄規則ニ讓ルコト、ナセリ

刑法ニ規定スル自由刑ノ種類五ツアリ(一)徒刑(二)流刑(三)懲役(四)禁獄(五)禁錮是レ

ナリ
流刑ト禁獄ハ國事犯ニ適用スル所ノモノ其他ハ皆常事犯ニ科スル所ノモノナ
リ余ハ只常事犯ノ刑ニ付テノミ順次説ク所アラントス

第一 徒刑 徒刑ノ執行方法ハ刑法第十七條ニ規定ス曰ク徒刑ハ有期無期ヲ
分タス島地ニ發遣シテ定役ニ服ス_ト故ニ本條ニヨレハ囚徒ハ島地ニ於テ定役
ニ服セサル可カラス然レトモ我國ハ日本島ト稱スルモノ、外未ターノ殖民地
ヲ有セサルカ故ニ囚徒ハ之ヲ島地ニ派遣セシムル能ハス皆内地ニ於テ徒刑ノ
執行ヲ爲スナリ臺灣琉球及ロ小笠原島ノ如キ之レアリト雖モ囚徒ノ派遣ニ適
ス可カラス左レハ刑法ニ於テ本條ヲ設ケタルハ畢竟徒法ノミ

第二 懲役 懲役ノ執行方法ハ第二十二條ニ規定スル所ナリ曰ク懲役ハ内地
ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス_ト然レトモ實際ニ於テハ徒刑囚モ之ヲ島地ニ發遣
スルコトナク内地ノ監獄ニ繋留スルモノナレハ毫モ懲役囚ト異ナル所ナキナ
リ

第三 禁錮 刑法第二十四條ニ曰ク禁錮ハ禁錮場ニ留置シ云々_ト然レトモ禁
錮場ト懲役場トハ實際殆ト名義上ノ區別ニ過キス唯集治監ニ於テハ十年以上
ノ囚徒ヲ拘禁シ地方監獄ニ於テハ十年以下ノ囚徒ヲ拘禁スト云フ別アルノミ
刑法ハ法文上徒刑懲役禁錮等ノ區別ヲ設ケタリト雖モ實際ニ於テハ殆ト空文
ニ屬スルモノ多シ現行監獄則ニ於テハ既決監ヲ分チテ二種トナス集治監及ヒ
地方監獄即チ是レナリ集治監ハ十年以上ノ自由刑ニ處セラレタル徒刑流刑ヲ
拘禁スル所トシ地方監獄ハ十年以下ノ自由刑ニ處セラレタル者及ヒ徒刑以下
ノ婦女ヲ拘禁スル所トス而シテ監獄ニ關スル費用ハ凡テ國庫ノ負擔トス
囚徒ノ勞役ハ大抵生産的ノ目的ヲ有シ政府ノ收入ニ歸スルヲ以テ一般ノ原則
トナス然レトモ或ハ不生産的ノ勞役ヲ爲サシムル國ナキニ非ス英國政府カ香
港ニ於テ有セシ監獄ノ如キハ其一例ナリ蓋シ香港ハ土地狹隘人口夥多ナラサ
ルカ故ニ監獄ニ於テ生産的ノ事業ヲ營ムトキハ香港ノ民業ハ之カ爲メニ壓倒
セラル、ノ恐レアリト謂フ蓋シ監獄ノ事業ハ職工ノ賃錢甚タ低廉ナルカ故ニ
監獄ノ製造品ハ民間ノ製造品ヨリモ低廉ニ販賣スルコトヲ得ルカ故ニ或ハ他

人ノ販路ヲ塞キ遂ニ民業ヲシテ衰頹セシメントコトヲ慮レルナリ
 囚徒ノ勞役ヨリ生シタル收益ハ如何ニ之ヲ處分スル乎刑法第二十五條之カ規
 定ヲ爲シテ曰ク「定役ニ服スル囚徒ノ工錢ハ監獄則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用
 ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス」ト此規定ニ付テハ多少ノ攻撃ナキニアラサルナ
 リ凡ソ囚徒ハ其衣食住ニ付テハ皆官ノ支給ヲ受ク是レ既ニ優待ナリ然ルニ尙
 ホ勞役ニ從事シテ其工錢ノ幾分ヲ所得スルノ權利ヲ有スト云フニ至リテハ實
 ニ過分ノ極ト謂ハサル可カラズ醜テ之ヲ獄外ノ窮民ニ比スルニ戴星シテ出テ
 踏月シテ歸リ終日孜々トシテ其業ニ從フモ尙ホ衣食住ノ必要ヲ充タスコト能
 ハサルニアラヌヤ然ルニ囚徒ハ衣食住ノ供給ヲ得テ尙ホ且ツ收益ノ幾分ヲ貯
 藏スルコトヲ得ルトセハ是レ普通人ヨリ優ル所アリト謂ハサル可カラズ其弊
 ヤ生存競争ノ苦境ニ堪ユル能ハサル者ヲシテ喜ンテ罪ヲ犯シ監獄ノ恩惠ニ浴
 センコトヲ希フニ至ラシム豈ニ恐レサル可ケンヤ
 然レトモ少シク日ヲ轉シ之ヲ經濟上ノ理由ヨリ觀察スルトキハ囚徒ノ増加ハ
 監獄費ノ増加トナリ監獄費ノ増加ハ人民ノ負擔ヲ重カラシムルノ結果ヲ生ス

若シ人民ノ負擔ヲシテ多少輕カラシメントコトヲ欲セハ囚徒ヲシテ其長スル所
 ニ從ヒ生産的ノ事業ニ從ハシメテ以テ其經費ノ幾分ヲ償ハシムルニ如クハナ
 シ然ルニ囚徒ノ勞役ヲシテ其效果ヲ奏セシメントスルニハ只鞭撻ヲ以テ其目
 的ヲ達シ得可キニ非ス鑛山炭坑ノ如キニ至テハ或ハ之ヲ虐使スルモ不可ナル
 ナシト雖モ美術工藝ノ如キ緻密ノ思想巧妙ノ技術ヲ要スルモノニ至リテハ決
 シテ虐待ノ力以テ其效ヲ收ムルコト能ハサルナリ必スヤ囚徒ノ事業ヲ獎勵ス
 ルノ方法ヲ設ケサル可カラズ其道他ナシ其勞役ヨリ生スル收益ノ幾部分ヲ割
 テ之ヲ囚徒ニ給與スルニ在リ故ニ總テノ囚徒ニ對シテ工錢ノ幾分ヲ給與スル
 ノ規定ハ未タ其可ヲ見スト雖モ事業ノ種類ニ從テ獎勵ノ方法ヲ設クルハ必ス
 シモ不可ナル所ヲ見ス

監獄事業ニ付テ注意ス可キハ即チ民業ノ妨害ヲナサ、ルコトヲ勉ムルニアリ
 今日監獄ノ事業ハ漸次改良ヲ加ヘ大ニ其進歩ヲ見ルニ至レリ若シ夫レ監獄ノ
 事業ニシテ尙モ民業ヲ妨害スルコトアラシカ爲メニ民業ノ廢滅ヲ來タシ其極
 亦犯人ノ増加ヲ來タスコトアリ

監獄事業ニ二種アリ一ヲ官業トシ一ヲ請負トス官業ニ於テハ總テ其事業費ハ官盡ク之ヲ負擔シ請負ニ於テハ請負人一切ノ事業費ヲ負擔シ恰モ囚徒ヲ以テ其職工トナシ監獄ヲ以テ其工場ト爲スニアリ二者ノ利弊ニ付テハ大ニ論ス可キモノアリト雖モ他日監獄制度ヲ論究スルノ時ヲ俟ツ可シ

監獄ノ事業ヲシテ民業ヲ凌駕シ良民ヲ害スルコトナカラシメンニハ普通人民ノ製作品ト獄内ノ製作品トノ價額ヲ均一ニスルニアリ只監獄ノ製作品ハ多少粗悪タルヲ免レサルヲ以テ比較的之ヲ廉價ニ販賣セハ可ナラン且ツ其販路狭小ナルモノハ之ヲ官業ニ屬セシメ其販路廣大ナルモノハ之ヲ民業ニ屬セシムルトキハ庶幾クハ二者ノ調和ヲ得ルコトヲ希フニ足ラン

第三章 附加刑

附加刑ニ三種アリ(一)自由上ノ附加刑(二)權利上ノ附加刑(三)財産上ノ附加刑即チ是レナリ監視ハ自由上ノ附加刑ニシテ剝奪公權及ヒ停止公權ハ權利上ノ附加刑ナリ而シテ罰金及ヒ沒收ハ財産上ノ附加刑ナリトス元來附加刑ナルモノハ

其目的再犯ノ發生ヲ豫防シ主刑ノ不備ヲ補充スルニアルヲ以テ其目的ヲ達スルニ足ラサル所ノモノハ以テ附加刑ト爲ス可カラサルナリ而シテ現行刑法ニ於ケル監視ノ制度ノ如キハ明カニ右ノ旨趣ニ反スルモノト云ハサル可カラサルナリ

第一節 自由上ノ附加刑(監視)

監視ハ其目的再犯ヲ防遏シ社會ヲ保護スルニ在リ蓋シ一旦自由刑ニ處セラレタル者ハ再ヒ社會ニ現出スルモ其信用已ニ地ニ墮チ容易ニ生活ノ途ヲ得ル能ハス之カ爲メニ直チニ再犯ヲ企ツル者尠ナシトセス故ヲ以テ出獄者ハ出獄後ニ於テ之ヲ其自由ニ放任ス可カラスシテ常ニ其一舉一動ニ注目シ特ニ之ヲ監視スルノ必要アリ是レ何人ト雖モ決シテ批難セサル所ニシテ余モ深ク其必要ヲ信スルモノナリ只出獄者ヲ監視スルノ方法如何ニ至テハ大ニ議論ノ存スル所ニシテ現行刑法ノ規定ヲ以テシテハ到底其目的ヲ達スルヲ得ス凡ソ出獄者ヲ監視スルニハ世人ヲシテ其出獄者タルコトヲ知ラシメスシテ而シテ之ヲ監

視スルノ方法ヲ採ラサル可カラス何トナレハ世人其出獄者タルコトヲ知ルニ於テハ必ス之ト相伍スルコトヲ嫌疑シ益々出獄者ノ信用ヲ狭少ニシ遂ニ出獄者ヲシテ生活ノ道ニ窮迫セシメテ而シテ再タヒ犯人タルニ至ラシム可ケレハナリ然ルニ現今ノ監視制度ハ全ク此旨趣ニ反スルカ故ニ再犯防遏ノ具トナラスシテ却テ犯罪養成ノ具タラントス是レ前ニ假出獄ノ問題ニ付テ論セシ所ナリ

改正刑法草案ハ現行刑法ノ監視規則ハ到底其效ナキノミナラス却テ弊害アルコトヲ知り盡ク之ヲ廢止シ單ニ監視ノ名稱ノ下ニ於テ出獄者ニ對シテ特別處分ヲ行フコトヲ許シタリ即チ(一)何時ニテモ監視者ノ家宅ヲ搜索スルコトヲ得ルコト(二)一定ノ地ヲ制限シテ監視者ノ立入ルコトヲ禁スルコト、セリ然レトモ(一)家宅搜索ノコトニ付テハ別ニ困難ナシト雖モ(二)一定ノ場所ヲ制限スルコトニ關シテハ甚困難ナル問題ヲ生スルナリ出獄者一定ノ土地ヲ追放セラレテ克ク其命ヲ遵守シ爾後其土地ニ足ヲ入ル、コトナクンハ敢テ論議ヲ要セスト雖モ若シ出獄者ニシテ其命ニ服從セスシテ禁制ノ場所ニ侵入スルトキハ果シ

テ如何ナル制裁ヲ加ヘントスルカ夫レ監視ハ再犯ヲ防カンカ爲メニ設ケタル所ノ規則ナリ然ルニ再犯豫防ノ監視ニシテ犯罪ノ原因ヲナスコトアラシメハ到底犯罪ノ減少ヲ期ス可ラス然ラハ則チ監視規則ハ之ヲ設クル容易ナリト雖モ其制裁ニ至リテハ大ニ困難ナリト云ハサル可カラス

〔第一注意〕監視ハ元來附加刑ナルヲ以テ主刑ナクシテ獨リ其用ヲ爲スモノニ非サルナリ然レトモ或場合ニ於テハ刑法ハ例外トシテ主刑ナクシテ獨リ監視ノミヲ科スルコトアリ刑法第三十四條第二項ノ規定即チ是ナリ例之ハ刑法第三百二十七條ノ場合ノ如シ

〔第二注意〕監視期間ハ主刑ノ刑期ノ長短ニ伴フモノナリ是レ即チ刑法第四十六條第三十七條及ヒ第二十九條等ニ規定スル所ナリ

第二節 權利上ノ附加刑(剝奪公權及ヒ停止公權)

權利上ノ附加刑ハ一種ノミ公權ノ剝奪及ヒ停止即チ是レナリ

剝奪公權ハ重罪ノ附加刑ニシテ停止公權ハ輕罪ノ附加刑ナリ剝奪ト停止ノ區別ハ單ニ其期間ノ長短ニ依リテ之ヲ設ケタルモノニ過キス剝奪ハ終身ノ喪失ニシテ停止ハ一時ノ喪失ナリ故ニ剝奪ト云フモ停止ト云フモ其執行ノ效果ニ至リテハ毫モ差異アルヲ見サルナリ刑法第三十二條ニ曰ク「重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス」ト而シテ第三十三條ニ於テハ「禁錮ニ處セラレタル者ハ刑期間公權ヲ停止スト規定シ第三十四條ニ於テハ輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ附シタル者ハ監視ノ期間公權ヲ行フコトヲ停止ストアリ抑々刑法ニ規定スル公權トハ如何ナルモノヲ謂フ乎第三十一條之カ答ヲ爲シテ曰ク剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

- 一 國民ノ特權
- 二 官吏ト爲ルノ權
- 三 勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權
- 四 外國勳章ヲ佩用スルノ權
- 五 兵籍ニ入ルノ權

六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

八 分散者ノ管財人ト爲ルノ權

九 學校長及教師學監ト爲ルノ權

第一 國民ノ特權 刑法定定ノ當時ニアリテハ未タ憲法ノ設ケナキヲ以テ國民ノ特權ノ如何ナルモノナルコト得テ而シテ知ル可カラサリキ從ツテ其解釋ノ區々ニ出テタルヤ亦疑フ可カラサルナリ然レトモ今日ニ於テ特權ノ何物タルコトヲ知ラントスルニハ必ス我憲法ニ基キ之ヲ解釋セサル可カラス試ミニ我憲法ヲ案スルニ其第十九條ニ曰ク「日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均シク文武官ニ任セラレ及ヒ其他ノ公務ニ就クコトヲ得」ト又第二十條曰ク「日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有スト是レ皆日本人ノ特權ナリ外國人ハ決シテ之ヲ有セス

憲法第十九條及ヒ第二十條ニ規定スル所ノモノハ皆日本人民ノ特權ニシテ公

權ニ屬ス而シテ其第二十一條乃至第三十條ニ規定スル所ノモノハ悉ク是レ日本ノ私權ニ屬ス第十九條及第二十條ノ權利ハ外國人之ヲ有スル能ハサルヤ素ヨリ論ナシ然レトモ第二十一條乃至第三十條ニ規定スル權利ハ果シテ是レ日本人ノ特權ニシテ其特有物ナリト云フヲ得ルヤ抑モ此等ノ權利ハ凡ソ人カ社會ニ立チ生存スルニ付必要缺ク可カラサル所ノモノニシテ此等ノ權利ナクソハ人ハ一日モ安全ノ生活ヲ保ツコトヲ期ス可カラサルナリ去レハ此種ノ權利ハ日本人ト外國人トヲ問ハス必ス之ヲ有セシメサル可カラス若シ然ラストセシカ外國人ハ日本ニ於テ一日モ其生ヲ安スル能ハサルニ至ラン然ラハ則チ刑法ニ所謂國民ノ特權トハ必ス日本人特有ノ權利ナラサル可カラス而シテ憲法第十九條ニ規定スル文武官ニ任用セラル、權利及ヒ第二十條ニ於ケル兵籍ニ入ルノ權ノ如キハ別ニ本條第二號及ヒ第五號ニ規定スルヲ以テ第一號中ニ包含スト云フ可カラス故ニ第一號ニ所謂國民ノ特權ハ極メテ狹隘ニシテ單ニ憲法第十九條後段ニ所謂其他ノ公務ニ就クノ權ニ止マラサル可カラス公務ニ就クノ權トハ廣ク參政權ヲ指示スルヲ以テ官吏ニ任用セラル、權利ノ如キモ

亦之ヲ包含セサル可カラス然ルニ官吏ニ任用セラル、權ニ付テ別段ノ規定ヲ設クル上ハ茲ニ所謂公務ニ就クノ權トハ法律ニ依リ組織セラレタル議會ニ於ケル選舉權、被選舉權ヲ指スモノナリト解釋セハ則チ可ナラン

第二 官吏ト爲ルノ權 官吏ト爲ルノ權トハ元ト是レ國民ノ特權中ノ一ナリ若シ強テ之ヲ解釋セハ參政權ニ對シテ云フモノナリトナシテ可ナラン

第三 勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權 人民カ政府ヨリ受ク可キ特權ニ過キス之ヲ奪フハ其人ノ名譽ヲ害セントノ目的ニ出ツルナリ然レトモ勳章年金ノ如キハ必ス日本人ノ特有權ニ非ス外國人モ亦之ヲ有スルコトヲ得ルナリ恩給ヲ有スル權ヲ以テ之ヲ此ニ編入シタルハ少シク穩當ヲ缺クニ似タリ恩給ハ官吏カ奉職中其俸給ノ幾部ヲ減シテ以テ毎月官ニ貯蓄シタル積立金ナリ即チ官吏カ一個人又ハ銀行ニ預ケタル貯蓄金ト毫モ異ナル所ナシ然ルニ其人刑罰ヲ受ケタルカ爲メニ此貯蓄金取戻ノ權利ヲ失フト謂フニ至リテハ間接ニ巨額ノ罰金ヲ科スルニ同シ豈劊奪公權ノ本旨ナランヤ

第四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權 此權利ヲ奪フモ亦是レ其人ノ名譽ヲ害セ

ントノ目的ニ外ナラス然レトモ刑法ニハ只外國ノ勳章トノミアリテ年金ノ事ヲ一言セス故ニ此權利ヲ失フモ年金ノ權ハ之ヲ失フモノニ非サルナリ

第五 兵籍ニ入ルノ權 日本人ノ兵籍ニ入ルハ一ニ義務ニシテ權利ニアラス憲法第二十條ノ如キ亦之ヲ以テ一義務ナリトセリ一朝國ニ事アルニ當リ之カ防禦ノ事ニ任スルモノハ日本人ヲ措テ豈ニ他アランヤ然ラハ則チ日本人ノ兵役ニ就クハ權利ニアラスシテ義務タルヤ明カナリ若シ夫レ兵籍ニ入ルヲ以テ國民ノ權利ナリトシ重罪ヲ犯シタル者ハ此權利ヲ剝奪セラル、モノナリトセシカ或ハ兵役ニ就クヲ欲セサル者ハ好シテ重罪ヲ犯スニ至ラン然レトモ軍隊ハ國ヲ防衛スルノ要具ナリ而シテ犯人ハ國ヲ害スルノ惡民ナリ此惡民ヲ驅リテ以テ防衛ノ要具トナス豈ニ危險ナラスヤ重罪ノ刑ヲ受ケタル者ヲシテ兵役ニ入レシメサルハ全ク其理由ナキニ非サルナリ

第六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權 凡ソ證人トナルコトハ國民ノ義務ニシテ權利ニ非サルコトハ刑事訴訟法ニ於テ明カニ規定スル所タリ然ルニ之ヲ以テ一ノ權利ナリト規定セシハ刑法ノ誤ナリト謂ハサル可カラス若シ之ヲ權利

ナリトセシカ裁判所ハ其必要ヲ認メサル場合ニ於テモ尙ホ證人ヲ訊問スルノ義務アルナリ凡ソ證人ハ裁判所ニ於テ或事實ヲ明白ナラシメンカ爲メニ之ヲ用ユルニ過キサル者ナレハ假令國民ハ證人タランコトヲ望ムモ之ヲ必要トセサル場合ニ於テハ之ヲ拒絕セサルヲ得ス如斯裁判所ハ證人ヲ訊問スルト訊問セサルトノ自由ヲ有ストセハ證人タルノ行爲ハ是レ其人ノ義務ニシテ權利ニ非サルヤ明カナリ今假リニ一步ヲ譲リテ之ヲ權利ナリトスルモ法律ハ何ノ理由ニヨリテ獨リ證人タルコトヲ禁セシヤ鑑定人通事モ亦裁判所ノ耳目トナリ事實ヲ明カナラシムルモノナリ豈ニ之ヲ證人ト區別ス可キノ理由アランヤ

第七 後見人ト爲ルノ權 後見モ亦是レ國民ノ義務ナルコトハ民法ニ於テ明カニ規定スル所ナリ凡ソ日本政府ハ日本人ヲ保護スルノ義務アリ而シテ其義務ヲ行フニ付テハ或ハ一般保護ヲ以テ足レリトナスコトアリ或ハ特別保護ヲ要スル場合アリ無能力者ノ如キハ特別保護ヲ要スル者ニシテ法律ハ其目的ヲ達センカ爲ニ後見制度ヲ設ケタルナリ後見職ハ法律ノ命スル所ノ義務ナルヲ以テ其選任ヲ受ケタル者ハ故ナク之ヲ辭任スルヲ得サルナリ然ルニ刑法之ヲ

以テ權利ナリトセシハ余輩其理由ノ存スル所ヲ知ラサルナリ然レトモ後見職ハ信用上ニ本ツク所ノモノナレハ重罪犯者ノ如キ其信用ヲ亡ヒタル者ヲ選ミテ特別保護者ノ重大ノ任務ニ當ラシムルコトハ危險モ大ナリト謂ハサル可カラス故ニ歐洲諸國ノ法律ニ於テモ此種ノ犯人ニ對シテ後見人トナルノ資格ヲ奪ヒタル例ハ屢見ル所ナリ改正刑法草案ノ如キ亦此理由ヨリシテ此種ノ者ニ對シテ後見人タルノ義務ヲ免レシムルノ規定ヲ設ケタリ

第八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スル權 管財人ハ破産者ヲ代表スルカ爲メニ之ヲ設クルモノナリ此職モ亦信用ヲ基礎トシテ設クル所ノモノナレハ一タヒ重罪ヲ犯シテ刑罰ニ處セラレタル者ヲシテ此職務ニ任セシム可カラサルヤ論ヲ俟タス會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權モ亦是レ信用ニ本ツク所ノモノナレハ爰ニ之ヲ禁スル誠ニ理由アルナリ

第九 學校長及ヒ教師學監トナルノ權 學校ニシテ官立ナル時ハ其教師モ亦官吏ナリ然ルニ官吏ニ關シテハ既ニ第二號ノ規定アレハ此ニ之ヲ再ヒスルノ必要ナシ然ラハ此ニ規定セル學校長教師學監ハ私立學校ヲ指示シタルモノナ

ランカ然レトモ學校ニハ普通學ノモノアリ專門科ノモノアリ工藝技術科ノモノアリ其何レノ種類ヲ問ハス苟モ學校ノ名稱ヲ有スル者ニ對シテ常ニ此規定ヲ適用セントスルハ大ニ文明ノ進歩ヲ害スル憂ナキカ例之茲ニ全國唯一ノ畫工アリ其畫工誤テ重罪ヲ犯セリ若シ出獄後之ヲ以テ教師トナス可カラサシメハ其技術ハ到底之ヲ後進者ニ授クルヲ得スシテ終ハラントス豈ニ文明專業ノ爲メニ賀ス可キコトナランヤ

終リニ臨ミテ一言ス可キモノアリ公權ノ剝奪ト其停止ハ其目的同一ニ出ツルト雖モ其性質ニ至リテハ二者必スシモ同一ナラサルモノアリ剝奪公權ハ永遠無窮ニシテ終身刑ナリ停止公權ハ刑期內ニ止マルモノトス抑々剝奪公權ハ善良ノ附加刑ナルヤ余ヲ以テ之ヲ觀レハ剝奪公權ハ實ニ不公平ニシテ且ツ無効ノ附加刑タルヲ免カレス凡ソ剝奪公權ハ犯人ノ身分ニ依リ之ヲ適用スルニ於テ初メテ其效ヲ奏スルモノナリ例之國民ノ特權ヲ行フ所ノ人又ハ官吏タル者ニ對シテ之ヲ科センカ大ニ其效ヲ奏ス可シト雖モ此等ノ身分ヲ有セサル者ニ對シテ之ヲ科スト雖モ果シテ何等ノ效果ヲ奏スルヤ夫レ斯ク剝奪公權ハ或ル

一部ノ人ニ對シテハ其效ヲ奏シ他ノ一部ノ人ニ對シテハ更ニ其效ヲ有スルモノニアラストセハ其刑ノ不公平ナルヤ明カナリ然ルニ刑法ハ何等ノ區別スル所ナクシテ之ヲ一般ニ適用スヘシト規定シタルハ是レ誤謬ノ甚シキ者ナリ故ニ剝奪公權ハ之ヲ科スルニ當リテハ第三十一條ニ規定スルカ如ク必ス全部ヲ科スルモノトナサヌシテ自由ニ之ヲ分割スルコトヲ得テ而シテ犯人ノ身分ニ應シ其適切ナルモノヲ撰ミテ之ヲ科スルコト、ナサハ或ハ其效ヲ見ルコト大ナル所アラシク改正刑法草案ハ此主義ヲ採リ剝奪公權ヲ以テ可分的ノモノトセリ

第三節 財産上ノ附加刑

財産上ノ附加刑二種アリ罰金及ヒ沒收即チ是レナリ沒收ハ單純ナル附加刑ナルヲ以テ茲ニ之ヲ論ヌ可キハ固ヨリ當然ナリト雖モ罰金ハ或ハ主刑タルコトアリ或ハ附加刑タルコトアルヲ以テ主刑トシテハ主刑ノ項ニ於テ之ヲ論シ附加刑トシテハ附加刑ノ項ニ於テ之ヲ論セサル可カラサルニ似タリ然レトモ罰

金ハ其性質及ヒ徵收ノ方法ニ至テハ常ニ同一ナルヲ以テ集メテ之ヲ概論スルモ敢テ不可ナル所ナケン

第一款 罰金附科料

罰金ハ政府ニ對シテ金額ヲ辨償スルノ義務ヲ負擔スルニ於テ成立スル所ノ刑罰ナリ其刑罰ハ必ス二性質ヲ有ス

(一) 罰金ハ禁制命令ノ違反ニ付テ科スル所ノモノナリ故ニ民法又ハ契約ニ於テ規定スル過怠金ト混同ス可カラス

(二) 罰金ハ犯罪事實ノ審理後判事ニ於テ宣告スル所ノモノナリ

此二性質ヲ備フル以上ハ其民事部ニ於テ之ヲ科スルモ又刑事部又ハ豫審ニ於テ之ヲ科スルモ決シテ刑罰ノ性質ヲ失フモノニアラサルナリ然ルニ我現行ノ法律中罰金ノ名稱ヲ有セスシテ罰金ノ性質ヲ備フルモノアルヲ見ル例之ハ銃砲彈藥取締規則ニ於テ此規則ヲ犯ス者ハ過料ニ處ストアリ過料ノ刑名ハ刑法ニ記載セサルカ故ニ論者之ヲ以テ刑罰ニアラス刑事裁判所ニ於テ宣告ス可キモノニアラストナスアリ余ハ法律ニ於テ禁制命令ノ制裁トシテ之ヲ設ケ而シ

テ其制裁ハ裁判所之ヲ司トルモノナリト認ムル上ハ其名稱ノ如何ニ拘ハラズ
刑罰ノ性質ヲ有スルモノナリト信シテ疑ハサルナリ故ニ過料ハ其刑名刑法ニ
記載ナシト雖トモ罰金又ハ科料トシテ之ヲ宣告スルニ於テ其不可ヲ見サルナ
リ

(二) 罰金ハ刑罰ナリ故ニ刑罰ノ性質ハ盡ク之ヲ罰金ニ適用セサル可カラズ

(イ) 罰金ハ犯人ノ一身ニ專屬ス(1)故ニ罰金ノ宣告前又ハ其宣告確定前犯人
死去スルトキハ公訴消滅スルカ故ニ其子孫ニ對シテ之ヲ徵收スルヲ得ス若
シ判決確定後犯人死去スルトキハ其子孫ハ先人ニ代ツテ罰金ヲ納ムルノ義
務アルカ論者曰ク罰金ノ裁判確定スレハ政府ハ其犯人ニ對シテ債權者トナ
リ犯人ハ債務者トナルナリ債務者ノ義務ト權利ハ其相續人之ヲ相續スルヲ
以テ犯人ノ死去後相續人ハ罰金ヲ完納スルノ義務アリト余ハ此説ニ左祖ス
ル能ハサルナリ刑ハ其人ノ一身ニ止マルトハ刑法ノ原則ナリ若シ子孫ハ先
人ノ罰金ヲ完納スルノ義務アリトスレハ是レ犯人以外ノ者ニ對シテ刑ヲ科
スルナリ特ニ罰金ハ之ヲ完納セサルトキハ之ヲ以テ輕禁錮ニ換フルノ制裁

アリ若シ子孫ニシテ罰金ヲ完納スルノ資力ヲ有セサランカ子孫ハ輕禁錮ノ
制裁ヲ受ケサル可カラス豈ニ刑法ノ禁制命令ニ違犯セスシテ而シテ刑罰ヲ
受クルノ道理アラシヤ(2)數人共犯ノ場合ニ於テハ共犯人ノ各自ニ對シテ全
額ノ罰金ヲ科スルナリ(3)民事擔當人ニ科ス可キ罰金ハ民事擔當人之ヲ完納
スルノ義務アルヲ以テ若シ完納スル能ハサルトキハ換刑處分ヲ受ケサル可
カラス例之ハ未成年ノ酒造營業人アリ營業上ノ事務ハ皆其後見人ニ於テ之
ヲ管理ス一朝誤テ營業上ノ規則ニ違犯ス此場合ハ法律ハ未成年者ヲ罰スル
能ハサルヲ以テ必ス其後見人ヲ罰セサル可カラス若シ後見人罰金ヲ完納ス
ルコト能ハサレハ換刑處分ヲ受ケサル可カラス

(ロ) 罰金ハ法律ノ明文外ニ於テ之ヲ宣告スルヲ得ス

(ハ) 罰金ハ刑ノ時効ニ因テ消滅ス

(ニ) 罰金ハ二圓以上ト爲シ各本條ニ於テ其多寡ヲ定ムルカ故ニ判事ハ其多寡
ノ範圍内ニ於テ自由ニ之ヲ科スルコトヲ得

(三) 罰金ハ無資力者ニ對シテ之ヲ執行スルヲ得ス然レトモ犯人ノ無資力ハ其

責任ヲ免除スルノ原因トナラサルヲ以テ之ニ代フルニ換刑處分ヲ以テス刑法第二十七條ニ曰ク罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ完納セシム若シ完納セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿タサルモノト雖モ仍ホ一日ニ計算ス罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ請求ニ因リ裁判官之ヲ命ヌ但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルコトヲ得ス若シ禁錮限内罰金ヲ納メタルトキハ其經過シタル日數ヲ控除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シト本條ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ完納セシムルトアルヲ以テ裁判確定後一月間ハ犯人ニ於テ罰金ヲ納メサルノ權利ヲ有ス罰金ノ刑ニ限り一月間ノ執行猶豫ヲ爲スノ理由ナキヲ以テ改正刑法草案ニ於テハ之ヲ改正シテ確定後直チニ徵收ス可キモノトセリ

科料ニ付テハ別ニ論スヘキモノナシ是レ五錢以上一圓九十錢以下ノ罰金ニ過キサルナリ科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ完納セシム若シ限内完納セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照ラシ之ヲ拘留ニ換フ(第二十九條及第三十條)

第二款 沒收

沒收ニ付テハ先ツ沒收ス可キ物件ヲ論シテ後テ沒收ノ性質ヲ論ス可シ

(一) 沒收ス可キ物件如何 刑法第四十三條ニ曰ク左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但シ法律規則ニ於テ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

- 一 法律ニ於テ禁制シタル物件
- 二 犯罪ノ用ニ供シタル物件
- 三 犯罪ニ因リテ得タル物件

本條ノ規定ニ因レハ凡ソ沒收ス可キ物件ノ種類三ツアリ(一)法律ニ於テ禁制シタル物件(二)犯罪ノ用ニ供シタル物件(三)犯罪ニ因テ得タル物件即チ是レナリ

(イ) 法律ニ於テ禁制シタル物件トハ如何ナルモノヲ謂フ乎先ツ禁制ノ意義ヲ明ラカニスルヲ要ス禁制ノ場合甚タ多シ或ハ物件ノ製作輸入ヲ禁制スルコトアリ或ハ物件ノ販賣交換ヲ禁制スルコトアリ或ハ物件ノ所持所有ヲ禁制スルコトアリ此數個ノ場合ニ於テ其禁制ハ所爲ヲ目的トスルアリ又物件ヲ目的トスルアリ其物件ヲ目的トシタル場合ニ於テハ沒收ノ規則ヲ適用スル

コト甚タ困難ナラスト雖モ其所爲ヲ目的トシタル場合ニ於テハ沒收ノ適用必ス容易ナリト謂フ可カラス製作輸入ノ所爲ヲ禁制シ所持所有ノ所爲ヲ禁制シタルトキハ間接ニ物件其モノヲ禁制シタルニ均シキカ故ニ沒收ノ刑ヲ適用シテ毫モ不可ナル所ナシ然レトモ販賣交換ノ所爲ヲ禁制シタルトキハ是レ物件其モノヲ惡ミテ而シテ之ヲ禁制シタルニアラスシテ只販賣交換ノ所爲其モノヲ惡ミテ之ヲ禁制シタルナリ故ニ販賣交換ヲ爲サ、ル限リ其物件ヲ製造シテ可ナリ之ヲ輸入シテ可ナリ之ヲ所持所有シテ不可ナルナキヲ以テ此種ノ禁制物件ニ對シテ沒收ノ刑ヲ適用スルハ余未タ其可ヲ見サルナリ

余ハ間接直接ニ物件其モノ、成立存在ヲ禁制シタル場合ヲ指シテ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリト謂フモノナリト解釋セント欲スルナリ例之ハ偽造變造ノ貨幣又ハ阿片烟ハ之ヲ製造輸入スルコトヲ禁制シ又阿片烟ハ之ヲ所有シ受寄スルコトヲ禁制シ狼襲ノ圖書物品ハ公然之ヲ陳列シ又ハ販賣スルコトヲ禁制シタルモノナリ偽造貨幣阿片烟ノ沒收ニ付テハ何人モ疑フ所ナシト雖モ狼

襲ノ圖書物品ノ沒收ニ至リテハ未タ其可ヲ知ラサルナリ

現行刑法ノ規定ハ之ヲ解釋スル甚タ困難ナルヲ以テ改正刑法草案ニ於テハ此一項ヲ改正シテ犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物件ナリトセリ然レトモ犯罪行為ヨリ生シタル物件ナリトスルモ亦必ス明瞭ナリト云フヲ得ス余ハ未タ其孰レカ愈レルヲ知ラサルナリ

(ロ) 犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ犯人カ罪ヲ犯スニ付キ直接ニ使用シタル物件ヲ謂フ例之ハ人ヲ殺害スルニ用ヒタル兇器、放火スルニ用ヒタル火具ノ類ノ如シ然レトモ此物件モ亦屢々其性質ヲ明ニス可カラサル場合ナシトセス門戶牆壁ヲ踰越スルカ爲メニ用ヒタル梯子ハ何人モ其竊盜又ハ家宅侵入罪ノ用ニ供シタルモノナルコトヲ疑ハスト雖モ對岸ノ倉庫ヲ破壊センカ爲メニ河ヲ渡シタル舟ハ未タ以テ倉庫破壊ノ用ニ供シタルモノナリト謂フ可カラス要スルニ此物件ハ犯人カ之ヲ使用シタル方法如何ニ因リ沒收ノ目的トナルモノナレハ裁判官ノ認定ヲ俟ツテ後ニ定マルナリ

狩獵法違犯ニ關シ銃砲ノ沒收ニ付キ屢々困難ナル問題ヲ生スルコトアリ曰ク

無免許ニテ狩獵シタル者ノ銃砲ハ之ヲ沒收ス可キ乎曰ク禁制鳥ヲ射撃シ又ハ禁制ノ場所ニ於テ發銃シタル者ノ銃砲ハ之ヲ沒收ス可キ乎此等ノ問題ニ付テハ議論多シト雖モ余ハ一々之カ説明ヲ爲サスシテ只余ノ決定ヲ下スニ止メントス即チ無免許又ハ禁制地ノ銃獵ニ付テハ銃砲ヲ沒收ス可カラス禁制鳥ノ銃獵ニ付テハ銃砲ヲ沒收ス可シ何トナレハ無免許又ハ禁制地ノ銃獵ニ付テ銃砲ハ犯罪ノ用ニ供シタルモノニ非ス禁制鳥ノ射撃ニ付テハ其銃砲ハ犯罪ノ用ニ供シタルモノナレハナリ

(六) 犯罪ニ因テ得タル物件トハ犯罪ヲ行フテ而シテ取得シタル物件ヲ謂フ例之ハ竊盜ヲ爲シテ得タル金錢物品ノ如ク遺失物ヲ拾得シテ占領シタル物件ノ如ク賄賂ニ因テ得タル物件ノ如ク狩獵法違犯ニ因テ獲得シタル鳥獸ノ類ノ如シ

凡ソ犯罪ニ因テ得タル物件ニシテ其沒收ス可キモノハ必ス犯罪ニ直接シタルモノナラサル可カラズ犯罪ニ因テ得タル後其物件ノ性質種類ヲ變更シタルトキハ沒收ノ目的トナル可キモノニ非サルナリ例之ハ犯人ハ竊盜ヲ犯シテ時計

ヲ得直ニ之ヲ賣却シテ金錢ニ換ヘタリ又ハ金錢ヲ竊取シテ之ヲ以テ衣服ヲ調製セリ此等ノ場合ニ於テ犯人カ現ニ有スル所ノ金錢衣服ハ是レ皆犯罪ニ直接シタルモノニ非スシテ已ニ其性質ヲ變更シタルモノナレハ決シテ沒收ノ目的トナル可キモノニ非サルナリ

此原則ヲ勵行スルニ於テハ屢々奇恠ノ結果ヲ生スルコトアリ犯人ハ拾圓紙幣一枚ヲ竊取シ直ニ兩替屋ニ至リ壹圓紙幣十枚ニ換ヘタリトセンニ此壹圓紙幣十枚ハ其竊取セシ拾圓ニ非サルヲ以テ之ヲ沒收スルヲ得ヌ又犯人ハ一片ノ唐木ヲ竊取シ之ヲ其家ニ持歸リテ彫刻ヲナセリ此場合ニ於テモ物件ノ性質ハ已ニ一變セルカ故ニ沒收ノ目的ト爲ス可カラスト謂ハサルヲ得ヌ又犯人ハ氷塊ヲ竊取セリ捕縛ノ時ハ已ニ解ケテ水トナレリ此場合ニ於テモ亦其水ハ之ヲ沒收ス可カラサルナリ

(二) 沒收ノ性質如何 沒收ノ性質ニアリ(一)禁制物ニアラスシテ犯人ノ所有ニ係ルモノヲ目的トスルトキハ沒收ハ現物ヲ以テスル罰金ノ性質ヲ有ス(二)禁制物ヲ目的トスルトキハ沒收ハ警察處分ノ性質ヲ有ス

(甲) 罰金ノ性質 罰金ノ性質ヲ有スルトキハ沒收ハ單純ノ刑罰ナルヲ以テ其
目的犯人ノ不正利得ヲ禁制シ且犯罪ノ再發ヲ豫防セントスルニ在リ故ニ

(イ) 沒收ハ犯罪ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對スルニ非サレハ之ヲ適用スルコト
ヲ得ス數人共犯ノ場合ニ於テ時ヲ異ニシテ裁判ヲ爲スコトアリ此場合ニ
於テ同一物件ニ付キ初メ甲ニ對シテ沒收ヲ宣告シタルトキハ後乙ニ對シ
テ更ニ沒收ヲ宣告ス可キ乎沒收ハ刑罰ナリ其刑罰ナル性質ヨリ觀察スレ
ハ甲乙ハ共犯ナルヲ以テ凡テノ共犯者ニ對シテ同一ニ沒收ノ宣告ヲ爲サ
ル可カラサルニ似タリ然レトモ沒收ス可キ物件ニ付テ之ヲ考フレハ其
物件ハ單一ニシテ既ニ甲ニ對シテ沒收ヲ宣告シタル以上ハ乙ニ對シテ更
ニ宣告ス可キモノ無シ現物ナキ場合ニ於テハ沒收ハ之ヲ適用ス可カラサ
ルカ故ニ乙ニ對シテハ別ニ沒收ヲ宣告ス可キモノニアラサルナリ
(ロ) 沒收ハ犯人其者ニ對スルニ非サレハ之ヲ宣告スルヲ得サルヲ以テ犯人
死去スルトキハ沒收ノ刑ハ直ニ消滅スルコト猶ホ罰金ノ刑ノ如シ故ニ若
シ沒收ノ宣告前犯人死去スルトキハ其子孫ニ對シテ之ヲ宣告スルコトヲ得

ス若シ裁判確定前死去スルトキハ其沒收ハ公訴ト共ニ消滅ス可シ然レト
モ裁判確定後ニ至リ犯人死去シタルトキハ沒收物件ハ既ニ政府ノ所有ニ
歸シタルヲ以テ其子孫ニ對シテ之ヲ徵收セサル可カラス

(ハ) 沒收ハ犯人ノ所有ニ係ル物件ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス刑法第
四十四條ニ曰ク犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯
人ノ所有ニ係ル場合ニ非サレハ之ヲ沒收スルコトヲ得スト

(乙) 警察處分ノ性質 禁制物ニ屬スル物件ハ其成立存在ヲ以テ社會ノ爲メニ
危険アリト爲シ之ヲ沒收スルモノナレハ是レ其目的犯人ノ不正利得ヲ禁シ
犯罪ノ再發ヲ豫防スルニ在ラスシテ全ク物件其物ノ成立存在ヲ禁制セント
スルニ在ルヤ明カナリ故ニ若シ物件其物ヲシテ認廷ニ立チ辯論スルノ能力
ヲ得セシメハ直ニ物件其物ヲ對手トシテ之ヲ訴フルヲ得可キナリ只物件此
能力ヲ有セサルヲ以テ犯罪ノ機會ニ乘シ其存在スル所ニ付テ之ヲ沒收スル
而已此沒收ノ目的犯人ニ科スル刑罰ニアラスシテ物件其モノ、危害ヲ除ク
ニ在リトスレハ刑罰ノ性質ヲ有スルモノニ非スシテ警察處分ノ性質ヲ有ス

ルモノタルコト多辯ヲ俟タサルナリ於是乎左ノ結果ヲ生ス

(イ) 犯罪事實成立スルトキハ犯人ノ罰セラル、ト否トニ拘ハラズ沒收ヲ爲スコトヲ得可シ故ニ犯罪事實成立スル以上ハ未タ犯人ノ何人タルコトヲ知ラスト雖モ尙ホ沒收ヲ爲スコトヲ得論者或ハ言ハシ犯人ノ何人タルコトヲ知ラサルトキハ公訴ヲ提起ス可カラサルカ故ニ沒收ヲ行フニ其道ナカラントスト余曰ク此場合ニ於テハ檢事ハ只其物件ニ付キ沒收處分ヲ以テ之ヲ裁判所ニ請求スレハ可ナリ裁判所ハ其物件ノ性質ヲ審査シ沒收ノ裁判ヲ爲スコシ又此種ノ物件ノ沒收ハ犯人ノ死去後ト雖モ尙ホ其子孫ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得可シ但シ其子孫ハ自ラ犯シタル罪ナキヲ以テ假令沒收ノ宣告ヲ受クト雖モ訴訟費用ノ負擔ヲ爲スコキモノニ非サルナリ

(ロ) 此沒收ハ民事擔當人ニ對シテモ之ヲ宣告スルコトヲ得

(ハ) 禁制物ノ沒收ハ其物件ノ何人ノ所有ニ係ルヲ問ハス之ヲ行フコトヲ得刑法第四十四條ニ曰ク法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收スト蓋シ法律ノ目的ハ物件其モノ、成立存在ヲ禁セントスルニ

在レハ其所有主ノ何人タルヲ問フノ必要ナキヤ明ナリ

〔第一注意〕凡ソ沒收ス可キ物件ハ必ス裁判所ニ於テ現實之ヲ押收スルコトヲ要セス唯其物ハ裁判所ニ於テ之ヲ自由ニスルノ程度ニアレハ則チ可ナリ故ニ或ハ其物件ハ裁判所ニ於テ現實之ヲ押收スルコトアリ或ハ其物件ハ裁判所ニ於テ之ヲ差押ヘ他人ニ保管ヲ命スルコトアリ若シ夫レ沒收ス可キ物件ト沒收ス可カラサル物件ト混化シテ之ヲ分離ス可カラサルトキハ沒收ハ之ヲ執行ス可カラサルカ故ニ事實上ノ不能ニ因リ沒收ヲ爲スコカラス

〔第二注意〕現行刑法ニ於テハ沒收ハ法律ノ命令ナルヲ以テ如何ナル場合ニ於テモ苟クモ法律ノ條件ニ適合シタルトキハ必ス之ヲ爲サル可カラサルナリ然レトモ法律ノ禁制シタル物件ニ於テモ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ於テモ又犯罪ニ因リ得タル物件ニ於テモ物件ノ價值沒收スルニ足ラサルモノアリ此種ノ物件ヲモ尙ホ之ヲ沒收セントスルトキハ實際ノ不便大ナルヲ以テ改正刑法草案ニ於テハ之ヲ改正シテ沒收ヲ以テ裁判所ノ義務ト爲サスシテ之ヲ其權利ト爲シタリ即チ沒收ノ條件具備スルトキト雖モ裁判所ハ必ス其沒收ヲ宣告ス

ルノ義務アルモノニアラス裁判所ニ於テ没収ヲ必要ナリトスル場合ニ限り之ヲ行フノ權利ヲ有スル而已

第四章 刑期計算

凡ソ刑ハ裁判確定ノ後ニアラサレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス是レ刑法第五十條ノ規定スル所ナリ然レトモ刑ノ執行ト刑ノ起算ハ之ヲ混同スルヲ得ス第五十一條ニ於テ刑ノ起算ヲ規定ス曰ク「刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタルモノハ左ノ例ニ從フ(一)犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナルトキハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴不當ナルトキハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス(二)檢察官ノ上訴ニ係ルトキハ其上訴正當ナルト否トニ拘ハラヌ前判宣告ノ日ヨリ起算ス(三)上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタルトキハ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得ス」ト本條ニ因リテ之ヲ觀レハ刑期ノ起算ハ裁判確定ノ日ヨリセスシテ裁判宣告ノ日ヨリスルナリ然レトモ刑期起算ノ必要ハ總テノ自由刑ニ於テ之ヲ觀ル可キモノニアラス今刑期起算ノ必要ナキ場合ヲ舉クレハ「(一)無期刑ニ付テハ原則上刑期起算ノ必要ナシ何トナレハ無期刑ハ犯人ノ死ヲ以テ刑期ノ終了ト爲セハ其日數ヲ計算スルノ必要ナケレハナリ唯無期刑モ十五年ヲ經過スレハ假出獄ノ許ヲ受クルコトアルヲ以テ此場合ニ限り初メテ刑期計算ノ必要ヲ觀ルナリ(第二)缺席裁判ノ場合ニ於テモ亦刑期起算ヲ爲スノ必要ヲ觀サルナリ缺席裁判ノ場合ニ於テハ或ハ第五十九條ニ規定スル期間内ニ於テ犯人捕ニ就クニアラサレハ期滿免除ヲ得ルヲ以テ刑期ヲ起算スルノ必要ナシ或ハ其期間ニ於テ逮捕セラルトキハ逮捕ノ日ヨリ起算シ若シ故障ヲ爲シタルトキハ其裁判ハ無効トナルヲ以テナリ此故ニ刑期ノ起算ヲ必要トスル場合ハ唯有期自由刑ニ在リトス

有期自由刑ニ付テ刑期ノ起算ヲ爲スニ必要ナル原則三アリ
第一原則 有期自由刑ニ處セラレタル者判決ノ當時既ニ其自由ヲ失フタルトキハ其刑ノ執行ハ必ス裁判確定ノ日ヲ俟タサル可カラス
抑、裁判確定ノ日トハ則チ如何ナル日ヲ言フカ凡ソ裁判ニハ上訴ノ期間ヲ定メ控訴ノ期間ハ判決言渡ノ日ヨリ五日トス上告ノ期間ハ三日トス(刑訴第二百五

十二條及ヒ第二百七十一條此期間ヲ經過シタルトキハ初メテ判決ノ確定スルヲ觀ル即チ期間經過ノ翌日ヲ以テ確定ノ日トス故ニ若シ犯人ニ於テ控訴ヲ爲サハルトキハ第一審ノ判決アリタル日ヨリ五日ヲ經其翌日ヨリ刑ノ執行ヲ受ケサル可カラス若シ控訴ヲ爲シタルトキハ控訴ノ判決アリタル日ヨリ三日ヲ經其翌日ニ於テ判決ノ確定ヲ觀ル若シ又上告ヲ爲シタルトキハ上告ノ結果ニ因リ確定ノ日ヲ異ニス或ハ上告裁判所ニ於テ上告ヲ棄却シ又ハ擬律上ノ裁判ヲ爲シタルトキハ其裁判ハ其日確定シ若シ破毀シタルトキハ破毀後ノ裁判ノ確定ハ前例ニ同シキナリ

第二原則 裁判確定前ニ於ケル犯人ノ未決勾留日數ハ之ヲ刑期ニ算入ス可キ歟未決勾留ハ刑罰ニアラサル自由ノ剝奪ナルコトハ前既ニ論スル所ナリ既ニ刑罰タラサル以上ハ原則上之ヲ以テ刑期ニ算入ス可キモノニアラサルヤ明白ナリ

故ニ裁判前ノ勾留日數ハ其如何ナル場合ニ於テモ之ヲ刑期ニ算入セス然レトモ未決勾留ハ刑事被告人ノ爲メニ痛苦ヲ生スルコト尠カラサルヲ以テ

刑法ハ例外トシテ判決後ニ於ケル未決勾留ノ日數ヲ以テ之ヲ刑期ニ算入スルコトヲ許シタリ

刑法ハ判決後犯人カ勾留ヲ受ケタル場合ト其否ラサル場合トヲ區別シ刑期起算ノ規定ヲ爲シタリ

第一場合 犯人ハ勾留ヲ受ケス犯人勾留ヲ受ケサルトキハ刑期ハ裁判執行ノ日ヨリ之ヲ起算セサル可カラサルカ如シ然レトモ刑法ハ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スト言フノ規定ヲ設ケタルヲ以テ刑名宣告ノ日ヨリ判決執行ノ日ニ至ル迄ノ日數ハ全ク犯人ノ利得ト爲ルナリ

上訴中保釋ヲ受ケ又責付セラレタル場合モ亦同シ

第二場合 犯人ハ勾留ヲ受ク犯人勾留ヲ受ケタルトキハ左ノ區別ニ從テ其刑期ヲ計算ス

(イ) 犯人ハ上訴ヲ爲シ而シテ其上訴ハ控訴ニ於テモ亦上告ニ於テモ理由アルモノト爲リタルトキハ即チ刑ハ第一審判決ノ日ヨリ起算スルナリ即チ第一審判決ノ日ヨリ上告審確定ノ日ニ至ル迄ノ勾留日數ハ悉ク之ヲ刑期中ニ算

入スルナリ蓋シ犯人上訴シテ控訴上告共ニ理由アルモノト爲リタルトキハ
 第一審ノ判決モ又第二審ノ判決モ不當タルヲ以テ其不當ヲ正スカ爲メニ用
 非タル所ノ日數ハ則チ是レ犯人ノ過失ニ原因セスシテ全ク裁判所ノ過失ニ
 原因スルモノナリ裁判所ノ過失ハ爲メニ未決勾留ノ日數ヲ永クスルノ理由
 タラサルヲ以テ之ヲ刑期ニ算入スルハ元ヨリ當然ナリ
 控訴上告共ニ理由アリタルトキハ則チ刑期ノ起算ニ付キ毫モ困難ナシト雖
 モ犯人ノ上訴ニシテ或ハ控訴ニ理由アリテ而シテ上告ニ理由ナキ場合アリ
 或ハ控訴ニ理由ナクシテ而シテ上告ニ理由アル場合アリ此等ノ場合ニ於テ
 ハ如何ナル方法ニ因テ以テ刑期ヲ計算スルヤ論者曰ク刑法ニ所謂上訴ノ正
 當トハ上訴最終ノ結果ニ付テ之ヲ言フモノナレハ犯人ハ控訴ニ於テ正當ノ
 理由ヲ有スト雖モ上告ニ於テ棄却ト爲リタルトキハ犯人ノ最終ノ結果ハ正
 當ナラサルヲ以テ第一審ヨリ上告審ニ到ル迄ノ勾留期間ハ之ヲ刑期ニ算入
 スルヲ許サスト然レトモ余ハ此說ニ左祖スル者ニ非ス宜シク上訴審ノ階級
 ニ從テ刑期ノ計算ヲ區別ス可キモノト信スルナリ以下數個ノ場合ヲ區別シ

テ論究スル所アル可シ

(一) 犯人ハ第一審判決ニ對シテ控訴シ其控訴ハ正當ナリシモ犯人ハ尙ホ上
 告シテ棄却ノ判決ヲ受ケタリ此場合ニ於テ第一審ヨリ第二審ニ至ル迄ノ
 勾留期間ハ之ヲ刑期ニ算入シ第二審ヨリ上告審ニ至ル迄ノ日數ハ之ヲ刑
 期ニ算入ス可カラス刑法ハ單ニ上訴正當ナルトキハ云々ト言フテ而シテ
 其上訴ノ最終ノモノタルト否トニ付テ毫モ區別スル所ナシ然ラハ則チ犯
 人ノ控訴ニシテ正當ナランカ前判即チ第一審ノ判決ノ日ヨリ刑期ヲ計算
 ス可キハ當然ナリ然レトモ上告審ニ至リテ不當ト爲リタルトキハ則チ其
 上訴ハ正當ニアラサルヲ以テ必ス後判即チ第一審判決ノ日ヨリ控訴審判
 決ノ日ニ至ル日數ヲ控除シタル上上告審判決ノ日ヨリ刑期ノ計算ヲ爲ス
 可シ

(二) 犯人ハ第一審判決ニ對シテ控訴ヲ爲シ棄却ノ判決ヲ受ケテ而シテ更ニ
 上告ヲ爲シ其上告カ正當ナリトノ判決ヲ受ケタリ此場合ニ於テ第一審判
 決ニ對スル控訴ハ不當ナルヲ以テ第一審判決ノ日ヨリ控訴審判決ノ日ニ

至ル迄ノ期間ハ之ヲ刑期ニ算入スルヲ得スト雖モ控訴審判決ノ日ヨリ上告審判決ノ日ニ至ル迄ノ日數ハ之ヲ刑期ニ算入セサル可カラス前判即チ第二審判決ノ日ヨリ刑期ヲ起算スルナリ

(ロ) 犯人ノ上訴ハ控訴上告共ニ不當ナルトキハ後判即チ上告審宣告ノ日ヨリ刑期ヲ計算スルナリ此場合ニ於テ犯人ハ判決ノ正當ナルニ拘ハラス猶ホ判決ニ服セスシテ上訴ヲ爲シタル者ナレハ其間ノ未決勾留ハ犯人ノ自ラ招ク所其罪犯人ニ在リテ而シテ裁判所ニアラサルヲ以テ之ヲ犯人ノ利益ニ計算スルノ理由ナキモノナリ

(ハ) 犯人ハ上訴中其上訴ノ取下ヲ爲シタリ此場合ニ於テ第一審判決又ハ第二審判決ノ日ヨリ其取下ノ日ニ至ル迄ノ日數ハ之ヲ犯人ノ利益ニ計算ス可キモノカ將タ犯人ノ不利益ニ計算ス可キモノ歟刑法ハ上訴取下ノ場合ヲ規定セサルヲ以テ宜シク道理ニ因テ以テ之カ決定ヲ爲サ、ル可カラス犯人カ上訴ヲ取下ケタルハ是レ犯人原裁判ニ服從センカ爲メナリ犯人ニ於テ原裁判ニ服從スルトキハ則チ法律上其裁判ハ正當ニシテ批難スルモノナシト謂ハ

サル可カテス既ニ判決正當ナランカ其上訴ノ不當ナル論ヲ俟タスシテ明ナルヲ以テ上訴ノ取下ハ之ヲ以テ上訴ノ不當ナル場合ト看做スコトヲ得可シ故ニ原裁判宣告ノ日ヨリ上訴取下ノ日ニ至ルノ日數ハ之ヲ刑期ニ算入ス可カラス即チ取下ノ日ヲ以テ後判宣告ノ日ト看做スナリ

(ニ) 檢事ノ上訴ニ係ルトキハ其上訴ノ正當ナルト否トニ拘ハラス犯人ノ未決勾留日數ハ必ス之ヲ刑期ニ算入スルナリ若シ犯人上訴權ヲ行ハスシテ原判決ニ服從スルトキハ即チ刑期ハ其判決宣告ノ日ヨリ之ヲ起算スルヲ以テ爾來犯人ハ未決勾留ノ苦ヲ觀ルモノニアラサルナリ然ルニ檢事ハ其判決ニ服セスシテ上訴ヲ爲シタルトキハ上訴裁判ノ確定ノ日ニ至ル迄犯人ノ受ク可キ未決勾留ノ苦ハ是レ犯人ノ所爲ニ出ツルニアラスシテ檢事ノ所爲ニ出ツルモノナレハ假令檢事ノ所爲ハ正當ナルモ其未決勾留日數ハ之ヲ犯人ノ不利益ニ計算ス可キモノニアラス況ンヤ其上訴不當ナル場合ニ於テオヤ若シ犯人モ上訴シ又檢事モ上訴シタルトキハ如何此場合ニ於テハ犯人ノ上訴アリト雖モ苟クモ檢事ノ上訴アル以上ハ犯人ノ上訴ノ正當ト不正當トヲ

問ハス勾留日數ヲ以テ犯人ノ利益ニ算入セサルヲ得ス何トナレハ刑法ニ於テハ只檢事ノ上訴ニ係ルトキハ云々トアリテ其犯人ト上訴ヲ共ニシタル場合ト否トヲ區別セサルヲ以テナリ

第三原則 刑期ハ如何ナル方法ニ因リテ計算スル歟刑期ノ日ヲ以テスル場合ト月ヲ以テスル場合ト年ヲ以テスル場合トニヨリ其方法ヲ異ニス日ヲ以テスル場合ハ時ヨリ時ニ計算シ月ヲ以テスル場合ハ日ヨリ日ニ計算シ年ヲ以テスルモノハ曆ニ從テ刑法第四十九條第一項ニ曰ク刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從テト例之ハ禁錮三十日ト謂フトキハ二十四時間ヲ二十倍シタル期間ヲ謂ヒ禁錮十月ト謂フトキハ三十日ヲ十倍シタル日數ヲ謂フモノナリ若シ夫レ禁錮二年ト謂フトキハ其二年ノ年ニハ平年ト閏年ノ區別アリト雖モ法律ハ唯曆ニ於テ稱スル所ノ年ヲ以テ之ヲ計算スルナリ
尙ホ終リニ臨ンテ一言ノ注意ス可キモノアリ未決勾留ハ其目的危害ヲ豫防シ豫審ヲ確實ニシ且刑ノ執行ヲ擔保スルヲ目的トスルモノニシテ事實ノ必要已

ムヲ得サルニ出ツル處分ナリト謂フト雖モ犯人ヲシテ判決以前刑罰ニ等シキ處分ヲ受ケシムルハ決シテ間然ス可キモノナリト謂フ可カラス然ルニ刑法ハ唯判決以後ノ勾留日數ニ付テハ之ヲ刑期ニ算入スルコトヲ許シタリト雖モ判決以前ノ勾留日數ハ全ク之ヲ以テ犯人ノ損失ニ歸ス可キモノトセリ是レ豈條理ニ適合シタル法律ナリト謂フ可ケンヤ判決以後ニ於テ之ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得可キノ理由アリトセハ判決以前ニ於テ之ヲ刑期ニ算入セサルノ理由アラムヤ改正刑法草案ニ於テハ現行刑法ノ規定ヲ改メ判決ノ前後ニ拘ハラス左ノ區別ニ從テ勾留日數ヲ刑期ニ算入スルコト、爲シタリ即チ(一)懲役一日ニ付キ勾留六日(二)禁錮拘留一日ニ付キ勾留三日トセリ

第五章 期滿免除

第一節 總論

期滿免除ハ犯罪ノ發生後又ハ刑ノ宣告後一定時間ノ經過ニ因リ公訴權又ハ刑ノ執行權ヲ消滅セシムルノ效果ヲ生スル所ノモノナリ是レ只時ノ經過ニ因リ

犯人ニ對シテ公訴ヲ免シ又ハ刑ノ執行ヲ免スルカ故ニ期滿免除ノ名稱アリ又其公訴又ハ刑ノ執行ノ免除ハ一ニ時ノ效力ニ原因スルカ故ニ時効ノ名稱アルナリ犯人罪ヲ犯シ又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル後之ニ對シテ公訴ヲ提起スルコトナク又ハ刑ノ執行ヲ爲サスシテ一定ノ時期ヲ經過スルトキハ則チ其犯人ハ全ク公訴權又ハ刑ノ執行ヲ免ル、ヲ以テ爾來如何ナル理由アルモ其犯罪ノ被告人トナリ又ハ刑ノ執行ヲ受クルノ義務アルコトナシ抑々時ノ經過ヲシテ如斯キ效力ヲ生セシムルノ理由果シテ何處ニ在ル乎ガロ

氏曰ク期滿免除ヲ設クルノ理由ハ實ニ刑罰權ノ基本ヨリ出ツルナリ刑罰權ハ正義ト實利ヲ以テ其根據トナス正義ノ方面ヨリ觀ルトキハ則チ期滿免除ハ到底之ヲ設ク可キモノニ非スト雖モ實利ノ方面ヨリ論スレハ則チ大ニ之ヲ設クルノ理由アルヲ見ルナリ蓋シ罪ヲ犯シテ久シク之ヲ訴ヘス刑ヲ科シテ久シク之ヲ執行セサルトキハ則チ犯罪事實ハ漸ク社會ノ遺忘スル所トナリ威嚇ノ必要モ亦自ラ消滅シテ而シテ社會ノ刑罰權之ヲ施スノ所ナシ故ニ犯人ニ對シテ犯罪ノ結果ヲ免除シ又ハ刑罰ノ結果ヲ免除スルハ是レ犯罪ヲ遺忘シ又ハ刑

ノ宣告ヲ遺忘シタルナリトノ推定ニ基カスンハアラス刑罰ヲ行フノ理由ナキ場合ニ於テ公訴及ヒ刑ノ期滿免除ヲ設クルノ正當且ツ必要ナルコト蓋シ明白ナリ此推定ハ社會ノ實利ヲ目的トシテ之ヲ設ケタルモノナレハ決シテ反對ノ證據ニ因テ之ヲ破ル可キモノニアラサルナリト

是レ即チ佛國法ニ於テ規定シタル時効ノ基本ニシテ我現行刑法ノ採テ以テ之ニ倣フタル所ノモノナリ期滿免除ノ基本茲ニ在リトスレハ則チ犯罪ノ輕重ニ因テ以テ期滿免除ノ時期ノ長短ヲ區別シ又公訴ノ時効ト刑ノ時効ニ付テ其時期ヲ同フセサル所以ノモノモ亦自ラ明瞭ナリ蓋シ犯罪ノ重キモノハ之ヲ記憶スルコト永ク犯罪ノ輕キモノハ之ヲ記憶スルコト短ク又判決ヲ經サル犯罪ハ之ヲ遺忘スルコト易ク判決ヲ經タル犯罪ハ之ヲ遺忘スルコト難キハ則チ人ノ性情ニ於テ然ルナリ

故ニ我現行刑法ノ規定ヲ説明スルニ付テハガロ氏ノ說ヲ以テ最モ穩當ナリト謂ハサル可カラス或ハ罪業消滅ヲ以テ期滿免除ノ基本ト爲シ或ハ證據湮滅ヲ以テ其理由ト爲ス者アリト雖モ是レ皆ガロ氏言中ノ一部ニ過キサレナリ

余ハ深ク信ス現行刑法ノ期滿免除ニ付テハガロイ氏ノ説明ノ右ニ出ツルモノナキヲ

然レトモ余ハ元來絶對的ニ期滿免除ニ反對スル者ニ非スト雖モ佛國刑法又ハ我現行刑法ニ規定スル所ノ期滿免除ハ則チ大ニ之ヲ攻撃セント欲スルナリ刑法審査委員會ニ於テモ大ニ現行刑法ノ非ヲ鳴ラシ遂ニ期滿免除全廢説ヲ主張シタルモ多數ニ制セラレテ其目的ヲ達スルヲ得サリキ現行刑法ニ於テハ犯罪ノ輕重ニ從テ期滿免除ノ期間ヲ異ニシ之ヲ總テノ犯人ニ適用ス可シト爲シタリ若シ夫レ期滿免除ハ推定上ノ遺忘即チ刑罰權ヲ用ユルノ必要ナシト謂フノ理由ニ因テ之ヲ設ケタルモノナリトスレハ即チ苟モ社會ニ於テ刑罰ヲ用ユルヲ必要トスルトキハ如何ナル場合ニ於テモ其犯罪ヲ罰セサル可カラス犯罪ヲ罰スルノ必要アリテ而シテ尙ホ且ツ其犯罪ハ之ヲ遺忘シタリ之ヲ罰スルノ必要ナシトスルハ是レ大ニ刑罰權ノ原則ニ牴觸スト謂ハサル可カラス何トナレハ刑罰權ハ社會ノ犯罪ヲ防衛セント欲シ而シテ期滿免除ハ則チ其犯罪ヲ許容セント欲スレハナリ故ニ一定ノ時期ヲ經過スレハ犯人ノ如何ナル種類タルヲ

問ハス之ヲ罰スルノ必要ナシトシテ總テノ犯人ニ對シテ時効ノ規則ヲ適用セントスルハ則チ刑法ノ規定大ニ謬ル所アリト謂ハサル可カラス夫レ犯人ハ悉ク同一種類ノ者ニアラス或ハ營業的ニ犯罪ヲ慣行スル者アリ或ハ偶然ニ犯罪ヲ決行スル者アリ偶發性ノ犯人ニ對シテハ社會深ク之ヲ惡マスト雖モ慣行性ノ犯人ニ對シテハ社會最モ之ヲ恐ル、ナリ偶發性ノ犯人ハ屢改悛スルモノナルカ故ニ一定ノ時期ヲ經過スレハ之ニ對シテ公訴ヲ起シ又ハ刑ヲ執行スルノ必要ナシト雖モ慣行性ノ犯人ハ其社會ニ存在スル限りハ常ニ危害ヲ生スルノ恐アルモノナレハ此種ノ犯人ニ對シテハ幾十年ヲ經過スト雖モ之カ訴ヲ免シ又ハ刑ノ執行ヲ免除スルノ理由ヲ生セサルナリ刑罰權ハ社會ノ危險ヲ防衛スルノ大權ナリ社會ノ危險尙ホ未タ去ラスシテ而シテ此權利ヲ行ハサルノ理由アラムヤ故ニ余ハ犯人ノ種類ヲ區別シ改悛ノ效アル者ニ對シテハ期滿免除ノ利益ヲ與ヘ而シテ改悛ノ效ナキ者ニ對シテハ終身期滿免除ノ利益ヲ與ヘサラントノ規則ヲ設クント欲スルナリ即チ社會ハ刑罰權ヲ用ユルヲ必要トセサルトキハ則チ期滿免除ヲ與ヘ之ニ反シ社會カ刑罰權ヲ行フヲ必要

トスルトキハ則チ常ニ期滿免除ヲ與フ可キモノニ非スト云フニ在リ
期滿免除ニ二種アリ公訴ノ時効及ヒ刑ノ執行ノ期滿免除即チ是レナリ期滿免
除ノ理由ハ二者ニ通シテ同一ナリト雖モ公訴ノ時効ハ之ヲ刑事訴訟法ニ規定
シ刑ノ期滿免除ハ之ヲ刑法ニ規定スルヲ以テ余ハ只刑ノ期滿免除ニ付テ少シ
ク論スル所アラントス

第二節 刑ノ執行ノ期滿免除

第一款 期滿免除ノ區域

裁判所ニ於テ言渡シタル刑ハ一定ノ期間之ヲ執行セサルトキハ期滿免除ニ因
テ消滅スルモノナリ然レトモ是レ言渡シタル刑其モノ、消滅ヲ謂フニアラス
シテ其刑ノ執行權消滅スルモノナリ蓋シ裁判所ニ於テ一旦刑ヲ宣告シタル以
上其刑ハ記録ニ保存シテ幾百年ト雖モ磨滅スルノ憂ナク又遺忘スルノ恐ナキ
者ナリ其磨滅ス可カラス又遺忘ス可カラサルモノニ付テハ遺忘ノ推定ヲ爲ス
可キモノニアラサルナリ唯タ其刑ノ執行ニ至リテハ一定ノ時期ヲ經過スレハ

社會ニ於テモ犯罪事實ヲ遺忘スルノ結果刑ノ執行ヲ必要トセサルコトアルナ
リ故ニ世人屢刑ノ期滿免除ナリト謂フテ而シテ刑其モノ、消滅スルカ如クニ
論スル者アルモ是レ決シテ正確ノ言ト爲スヲ得ス刑ハ如何ナル場合ニ於テモ
消滅スヘキモノニアラス只刑ノ執行權消滅スルト謂フ可キノミ
期滿免除ハ刑ノ執行權ヲ消滅セシムルモノナリトスレハ即チ執行ノ必要アル
刑罰ニアラサレハ此規則ヲ適用スヘキモノニアラサルナリ故ニ未確定ノ判決
ニ對シテハ時効ヲ適用セサルヲ以テ原則トス(缺席判決ノ場合ハ例外ナリ)然レ
トモ主刑ノ確定ノミニ因リテ以テ效力ヲ生ス可キ附加刑ハ假令主刑ヲ免レタ
ル場合ニ於テモ時効ヲ適用セス是ヨリ時効ヲ適用ス可キ場合ト時効ヲ適用ス
可カラサル場合ヲ區別シテ論ス可シ

第一 時効ヲ適用ス可キ場合 時効ハ重罪輕罪違警罪ノ主刑並ニ附加ノ罰金
又ハ沒收ニ付テ之ヲ適用ス沒收ハ沒收物ノ所有權ヲ以テ之ヲ政府ニ移轉ス
ルニ在ルモノニシテ只判決ノ確定ノミヲ以テ其效力ヲ生スルモノナリ罰金
ハ政府ノ債權ヲ作ルモノニシテ是レ又判決ノ確定ノミヲ以テ其效力ヲ生ス

ルモノナリ故ニ此二者ニ對シテハ時効ノ原則ヲ適用ス可カラサルニ似タリ然レトモ凡ソ債權ニシテ一定ノ時期ヲ經過スレハ時効ノ利益ヲ得サルナキハ民法上ノ原則ナリ然ラハ則チ沒收モ罰金モ共ニ政府ノ債權タルニ過キサ
ルモノナレハ民法上ノ債權ト等シク時効ノ規則ヲ適用ス可キモノタルコト
毫モ疑ヲ容レサルナリ

第二 時効ヲ適用ス可カラサル場合 時効ハ剝奪公權停止公權、監視及禁制物ニ對シテ之ヲ適用セス刑法ハ如何ナル理由アリテ此種ノ附加刑ニ對シテ期滿免除ノ規則ヲ適用セスト謂フ乎此種ノ刑ハ主刑ニ附屬スル所ノモノナレハ主刑ト其運命ヲ共ニセサル可カラサルモノニ似タリ然レトモ公權ノ剝奪公權ノ停止ハ人ノ能力ノ剝奪停止ニシテ人ノ能力ハ時効ノ規則ニ因テ以テ之ヲ取得シ又之ヲ喪失ス可キモノニアラサルナリ即チ法律上其能力ヲ有セサル者數十年間事實上其能力ヲ行フト雖モ能力ノ占有ハ時効ノ原因ト爲ル可キモノニアラス能力ノ占有ハ時効ノ原因ト爲ラストスレハ剝奪公權停止公權ニヨリテ其能力ヲ失フタル者事實上幾十年之ヲ占有スルモ到底期滿免

除ニ因テ能力者タルヲ得サルヤ明ナリ故ニ剝奪公權及停止公權ニハ時効ノ原則ヲ適用セサルナリ

監視ニ付テハ公權ノ剝奪停止ト同一ニシテ論ス可カラサルナリ監視ハ政府ニ於テ犯人ニ對シテ特別ノ監督ヲ爲スニ於テ成立スル所ノ附加刑ナリ特別ノ監督ハ犯人ノ意思如何ニ拘ハラス政府ニ於テ之ヲ行フ所ノモノナレハ犯人ハ監視ヲ免レテ何處ニ行クト雖モ政府ノ監督ハ常ニ繼續シテ而シテ行ハル、モノナリ監督ノ執行繼續スル以上ハ何レノ時カ時効ヲ得ルノ機會アラムヤ例ヘハ被監視人ハ監視ノ執行地ヲ遁レタリ是レ監視規則ニ違背シタルモノナリ其逃走幾十年繼續スルト雖モ到底逃走人タルヲ免レス故ニ曰ク監視ニハ期滿免除ナシト

禁制物ハ其目的物件其モノ、成立存在ヲ禁制スルニ在ルヲ以テ其物件ノ成立存在スル限リハ幾十年ノ後ト雖モ之ヲ禁制セサル可カラサルカ故ニ期滿免除ノ規則ヲ適用ス可キモノニアラサルナリ

第二一欸 期滿免除ノ期間

期滿免除ノ期間ハ刑法第五十條ニ於テ之ヲ規定セリ曰ク「主刑ハ左ノ期限ニ從テ期滿免除ヲ得(一)死刑ハ三十年(二)無期徒刑ハ二十五年(三)有期徒刑ハ二十年(四)重懲役重禁獄ハ十五年(五)輕懲役輕禁獄ハ十年(六)禁錮罰金ハ七年(七)拘留料料ハ一年」ト又第六十條ニ於テ附加刑ノ期滿免除ヲ規定シテ曰ク「附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得」ト刑法ノ規定ハ裁判所カ犯人ニ科シタル刑名ヲ以テ期滿免除ノ期間ヲ定ムルノ標準ト爲セリ故ニ犯罪ノ性質ハ措テ問フ所ニアラサルナリ例ヘハ重罪ノ刑ヲ減輕シテ輕罪ノ刑ヲ科スルコトアリ此場合ニ於テハ犯罪ノ性質重罪ナリト雖モ之ニ科スル所ノ刑輕罪ナレハ則チ之ニ適用スルニ輕罪ノ刑ノ時効ヲ以テス可キナリ

第一問 期滿免除ノ期間ハ何レノ日ヨリ之ヲ起算ス可キ乎 第六十一條之カ規定ヲ爲シテ曰ク「期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタルヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタルトキハ其逃走ノ日ヨリ起算ス」ト蓋シ刑ノ期滿免除ハ刑ノ執行ヲ免除スルノ謂ナレハ執行ノ程度ニ達シタル刑即チ確定シタル刑ニアラサレハ期滿免除ヲ得可キモノニアラサルナリ

刑ノ宣告カ未タ確定セサル間ハ尙ホ公訴ノ執行中ニ在ルヲ以テ此場合ニ於テハ刑ノ期滿免除ヲ適用セシテ公訴ノ時効ヲ適用セサル可カラス之ヲ換言スレハ公訴ノ終ル日ハ則チ刑ノ執行ノ始マルノ日ナルヲ以テ刑ノ時効ノ始マリハ則チ刑ノ宣告ノ確定後ニ在ルコト明ナリ本條ニ於テ刑ノ執行ヲ遁レ又ハ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル云々ト規定シタルモ亦是レ其執行ノ程度ニ至リタル刑ヲ指シタルコトヲ明ニセシナリ是ヨリ對審判決ニ關スル場合ト關席判決ニ關スル場合ヲ區別シテ之ヲ論ス可シ

(二) 對審裁判ノ場合 對審裁判ニテ刑ノ宣告ヲ爲シタルトキハ上訴期間中ハ尙ホ公訴中ニ在ルヲ以テ刑ノ期滿免除ハ未タ開始セサルナリ一朝上訴期間經過シ其宣告確定シタルトキハ公訴ハ茲ニ消滅シテ而シテ刑ノ期滿免除ハ開始スルナリ然レトモ其開始ノ日ハガロ¹氏ノ主張スルカ如ク裁判宣告ノ日ニ遡ル可キモノニアラスシテ實ニ其裁判ノ執行ヲ遁レタル日ニ在リ故ニ第一審ニ於テ裁判確定シテ而シテ犯人ハ一日モ刑ノ執行ヲ受ケサルトキハ期滿免除ハ裁判宣告ノ日ヨリ控訴期間五日ヲ經過シタル翌日ヨリ起算シ

第二審ニ於テハ上訴期間三日ヲ經過シタル翌日ヨリ起算シ上告審ニ於テハ判決ノ日ヨリ起算ス

(三) 缺席裁判ノ場合 缺席裁判ハ確定裁判ニアラサルヲ以テ故障期間經過セサル間ハ尙ホ公訴中ニ在リト謂フ可キナリ故ニ缺席裁判ニ對シテハ刑ノ期滿免除ヲ適用ス可カラスト謂フヲ以テ原則ナリトス然ルニ刑法ハ第六十一條ニ於テ「缺席裁判ノ場合ヲ規定シテ曰ク缺席裁判ニ係ル場合ニハ其宣告ノ日ヨリ起算ス」ト此故ニ缺席裁判ヲ受ケタル者第五十九條ノ期間ヲ經過スル迄逮捕ヲ免レタルトキハ期滿免除ニ因リ刑ノ執行ヲ免ル、モノナリ刑法ハ何ノ理由アリテ缺席裁判ニ對シテ刑ノ期滿免除ヲ開始シタルヤ蓋シ刑法ハ缺席被告人ニ對シテ對審被告人ヨリ寛大ナル利益ヲ與フルコトヲ好マサリシナリ若シ缺席判決ニ對シテ刑ノ時効ヲ適用セントスレハ即チ犯人一旦捕ニ就キテ遁レタルトキハ長期ノ時効即チ刑ノ期滿免除ニ因ラサレハ其責ヲ遁ル、ヲ得ス而シテ初ヨリ缺席シテ一度モ捕ニ就カサルトキハ短期ノ期滿免除即チ公訴ノ時効ニ因テ以テ刑ノ免除ヲ受ク可シトセハ何人カ好ンテ

對審裁判ヲ受クルノ愚ヲ爲ス者アラムヤ是レ缺席裁判ノ場合ニ於テ特例ヲ設タルニ至リタル所以ナリ

若シ缺席裁判ニ對シテ故障ヲ爲シ更ニ輕キ判決ヲ受ケタルトキハ其輕キ判決ノ刑ニ付テ時効ヲ起算ス可キハ論ヲ俟タサルナリ

刑法ハ捕ニ就キテ逃走シタル場合ヲ規定スト雖モ是レ即チ期滿免除ノ原則ノ適用ニ外ナラサルヲ以テ別ニ之ヲ規定スルノ必要ナキナリ

第二問 刑ノ期滿免除ニハ中斷ノ方法アル乎 刑ノ期滿免除ハ刑ノ執行ノ期滿免除ヲ謂フモノナレハ其期間内ニ執行手續ヲ爲シタルトキハ尙ホ公訴期間内ニ於テ訴訟手續ヲ行フタル場合ノ如ク期滿免除ノ效果ヲ中斷スルノ效ヲ生スルヤ明白ナリ然ルニ刑法ハ只自由刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シテ中斷ノ方法ヲ設ケ而シテ財産刑ノ期滿免除ニ付テハ之カ中斷ヲ爲スノ規定ヲ設ケス刑法第六十二條ニ曰ク「刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタルトキハ最終ノ令狀ヲ發シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス」ト

第三場合 自由刑ニ處セラレタル者一日モ刑ノ執行ヲ爲サズシテ逃走シタ

リ此場合ニ於テハ對審裁判ニ付テハ其裁判確定ノ日ヨリ缺席裁判ニ付テハ其裁判宣告ノ日ヨリ起算ス可キナリ然ルニ後ニ至リテ令狀ヲ發シテ之カ逮捕ヲ命シタルトキハ最終ノ令狀ヲ發シタル日以前ニ於テ經過シタル期間ハ悉ク之ヲ無効トシ最終ニ令狀ヲ發シタル日ヨリ更ニ期滿免除ノ開始スルヲ觀ルナリ

第二場合 犯人ハ一旦捕ニ就キ一部ノ刑ノ執行ヲ爲シテ逃走シタリ逃走ノ日ハ即チ是レ刑ノ執行ヲ遁レタル日ナルヲ以テ此日ヨリ期滿免除ノ期間ヲ計算ス可キハ當然ナリ然レトモ後令狀ヲ發シテ逮捕ヲ命シタルトキハ最終ニ令狀ヲ發シタル日以前ノ期間ハ悉ク無効ニ歸シ令狀發布ノ日ヨリ期滿免除ノ時効ヲ起算スルナリ

終リニ臨ンテ尙ホ一言ス可キモノアリ公訴ノ時効ハ其效力大赦ニ同シク刑ノ時効ハ其效力特赦ニ同シ然レトモ特赦ニ因リテ刑ヲ免レタル者ト期滿免除ニ因リテ刑ヲ免レタル者ハ法律上同一ノ待遇ヲ受クルモノニアラス期滿免除ニ因リテ刑ヲ免レタル者ハ其刑ヲ免レタル日ヨリ監視ニ付セラレ特赦ヲ得タル

者ハ此義務ナシ又特赦ニ因リテ免刑ヲ得タル者ハ特赦狀中記載アレハ直モニ復權ヲ得主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過シタル後ニアラサレハ公權ノ回復ヲ得ス尙ホ終リニ臨ンテ一問題ヲ掲ク可シ

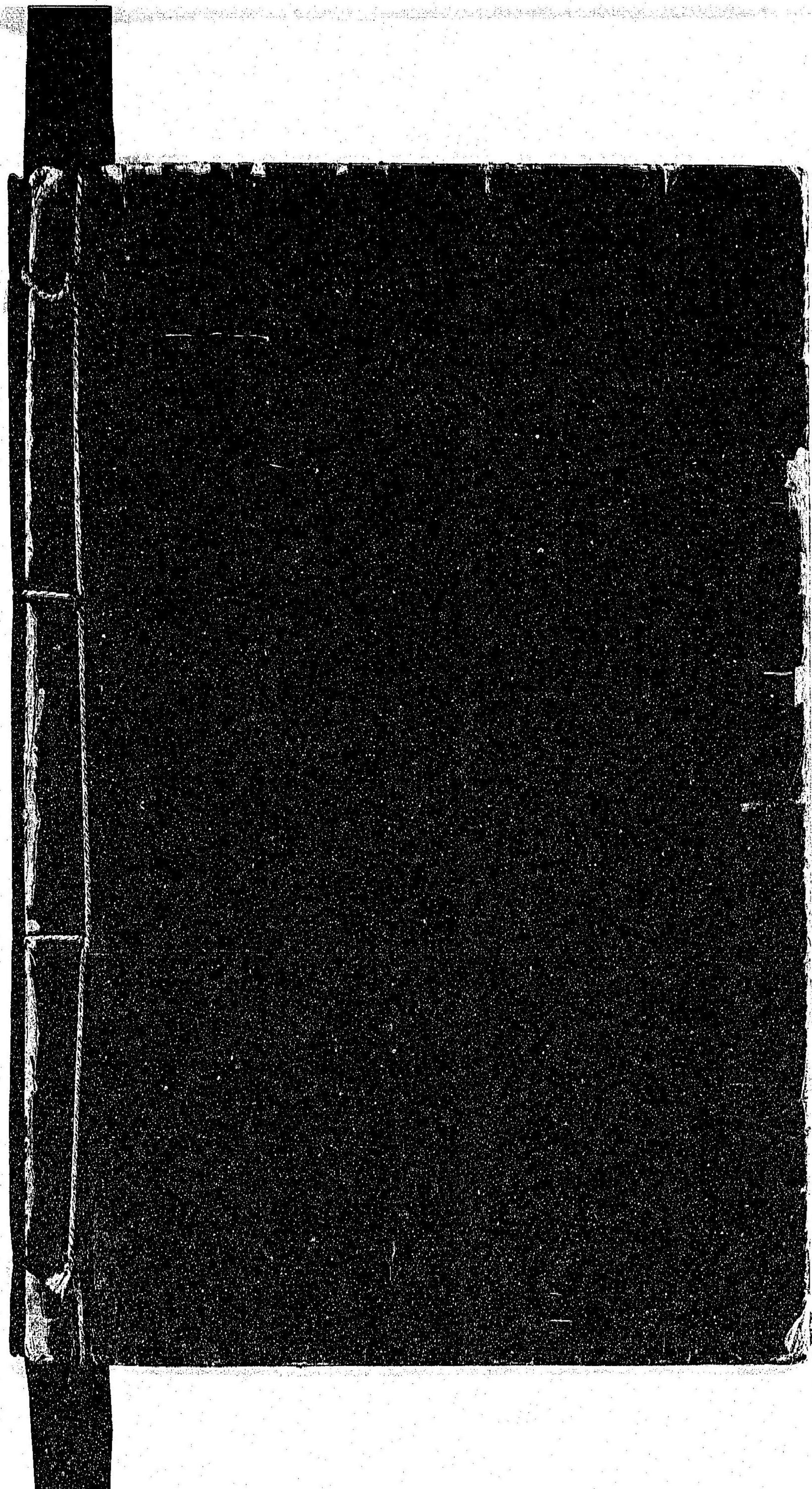
缺席裁判ノ場合ニ於テ主刑ノ期滿免除ヲ得タルトキハ其主刑ハ確定シタルモノト看做ス乎之ヲ換言スレハ期滿免除經過後犯人ハ尙ホ缺席裁判ニ對シテ故障ヲ申立ツルノ權利ヲ有スル乎余ハ本問ニ對シテ深ク論究スルノ邊ナキヲ以テ只一言ノ決定ヲ爲スニ止メントス曰ク期滿免除ヲ得タル主刑ハ之ヲ確定判決ト同視ス可シ從テ之ニ對シテ故障ヲ爲スヲ許サ、ルナリ刑法第四十條ニ曰ク主刑ノ期滿免除ヲ得タルトキハ其捕ニ就キタル時ヨリ監視ノ期限ヲ起算スト監視ハ主刑ニ伴フ所ノ附加刑ニシテ主刑ト共ニ確定スル所ノモノナリ期滿免除ノ經過後監視ヲ執行ストスレハ則チ法律ハ期滿免除ヲ經タル判決ヲ以テ確定判決ト同視シタルヤ蓋シ明白ナリ若シ否ラスト謂ハ、即チ是レ未確定ノ附加刑ヲ執行スルニ至ルナリ

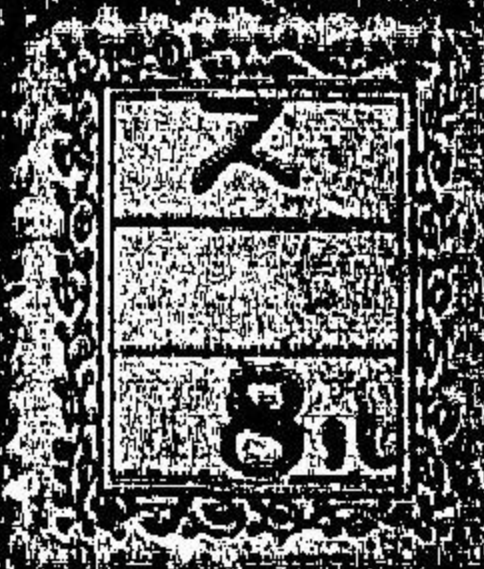
又
82

刑法(總論) 卅

1933.1.7

111





刑法講義(総論) 古賀廉造

035725-000-0

ス-8ル

刑法講義 総論

古賀 廉造/述

M3.4?

BBP-0298

